



Microsoft® Windows® 版 SAS® 9.1.3 Foundation 管理者ガイド



管理者ガイドについて

このドキュメントは、サーバーサイドでのBase SASとさまざまなSASプロダクト（使用するプロダクトはサイトによって異なります）によって構成されるSAS 9.1.3 Foundationのインストールガイドです。ミドル層とクライアント層のプロダクトのインストールについての情報は、SAS Software Navigatorから参照できます。

本ガイドは、目的別に2つの部に分かれています。

- 「第1部：SAS 9.1.3 Foundationの理解」は、管理者がSAS 9.1.3 Foundationのコンポーネントについて知らなければならない事項について解説しています。
- 「第2部：インストールと配置の説明」では、SAS 9.1.3 Foundationのウィザードとツールについて、手順を追って詳細に説明しています。

OLAP、Workspace Server、Stored Process Serverの設定に関する詳細は、『SAS Integration Technologies: Server Administrator's Guide』を参照してください。メタデータサーバーの設定に関する詳細は、『SAS 9.1.3 Intelligence Platform: Administration Guide』を参照してください。このドキュメントは、次のWebサイトから入手できます。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/configuration/index.html>

著作権情報

このマニュアルの正確な書籍情報は、以下のとおりです。

Administrator Guide for SAS® 9.1.3 Foundation for Microsoft® Windows®

Copyright® 2008, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA.

本書は、発行元であるSAS Institute, Inc.の事前の書面による承諾なく、この出版物の全部あるいは一部を、電子データ、印刷、コピー、その他のいかなる形態または方法によって、複製、転送、または検索システムに保存することは禁止されています。これらの説明書は著作権により保護されています。

著作権保護を受ける本書の使用の範囲は制限されています。許される使用の範囲とは、使用者のシステムに保存して端末に表示すること、本書が提供された目的である、SAS プログラミングおよびライセンスプログラムのインストール・サポートの責任者が使用するために、必要な部数だけコピーすること、および特定のインストール要件を満たすように内容を修正することを指します。本書の全部あるいは一部を印刷する場合、またはディスプレイ媒体に表示する場合は、SAS Instituteの著作権表示を明記する必要があります。上記の条件以外で本書を複製または配布することは一切禁止されています。

アメリカ合衆国政府の制約された権限についての通知

アメリカ合衆国政府による、本ソフトウェアおよび関連するドキュメントの使用、複製、公開は、「FAR52.227-19 Commercial Computer Software-Restricted Rights」（1987年6月）に定められた制限の対象となります。

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, North Carolina 27513.

SAS®およびSAS Instituteのプロダクト名またはサービス名は、米国およびその他の国におけるSAS Institute Inc.の登録商標または商標です。

®は米国で登録されていることを示します。

その他、記載されている会社名および製品名は各社の登録商標または商標です。

Microsoft Windows 版 SAS 9.1.3 Foundation 管理者ガイド

目次

管理者ガイドについて	ii
第 1 部 : SAS 9.1.3 Foundation の理解	1
SAS ログ上の表記	1
SAS 9.1.3 のインストールのためのドキュメント	1
システム必要条件	1
インストールガイドと設定ガイド	1
インストール検証ツール (Installation Qualification Tool)	2
Windows 版 SAS の配置における 2 つの開始点	2
SAS Setup Disk から起動した AutoPlay	3
SAS Software Navigator	4
エンドユーザーの分類	5
クライアントユーザーモデル	5
パーソナルユーザーモデル	5
CD-ROM ユーザーモデル	6
SAS インストールデータの取得と使用	6
SAS 管理者ウィザード	7
クライアントユーザーのためのイメージの作成	8
パーソナルユーザーのためのイメージの作成	10
ネットワークにアクセスしないパーソナルユーザーのための CD-ROM の作成	12
メンテナンスモード機能の使用	12
System Requirement ウィザード	13
System Requirement ウィザードの対話的な使用	13
System Requirement ウィザードでの Quiet モードの使用	15
SAS セットアップ	17
SAS セットアップの対話的な使用	17
SAS インストールデータの提供	18
インストールするソフトウェアの選択	18
SAS セットアップでの Record モードの使用	19
Record モードでの Quiet 記録ファイルの編集	20
SAS セットアップでの Quiet モードの使用	21
Quiet モードでの状態のチェック	22
Quiet モードの MIF ファイル	22
Quiet モードのログファイル	24
SAS インストールの更新	25
SAS 管理者ウィザードによる SAS 9.1.3 への更新	26

Quietモードによる更新の必要条件	27
第2部：インストールと配置の説明	28
SAS 9.1.3 Foundationインストールツールの使用	28
SAS Setup DiskからSASをインストール	28
SAS System Requirementウィザードの実行	29
SASセットアップウィザードの実行	30
SAS管理者ウィザードの使用	31
SAS管理者ウィザードの起動	31
SAS管理者ウィザードのダイアログ	31
SAS管理者ウィザードダイアログの順序	31
SAS管理者ウィザードのダイアログと指示	32
SAS管理者ウィザードで複数回使用するダイアログ	38
System Requirementウィザードの使用	39
オペレーティングシステムの更新	39
アンチウイルスソフトウェアおよびファイアウォールソフトウェアを終了する	39
System Requirementウィザードの起動	39
システム必要条件の更新	40
System Requirementウィザードのダイアログ	40
Quietモードによるシステム必要条件の配置	41
セキュリティに関する注意	42
コマンド	42
バッチスクリプト	43
SAS共有ファイル	43
SASセットアップウィザードの使用	44
SASセットアップウィザードの起動	44
SASセットアップを実行する3つの方法	44
Interactiveモード	44
Recordモード	44
Quietモード	44
SASセットアップのダイアログ	45
SASセットアップで複数回使用されるダイアログ	48
QuietモードによるSASセットアップの使用	50
注意事項	50
Quiet記録ファイルの記録	50
Quiet記録ファイルの編集	51
Language Values（言語値）	52
Quiet記録ファイルの使用	53

トラブルシューティング	53
Microsoft System Management Server 2.0 を使用したSASのインストール	54
手順 1 : SAS Quiet記録ファイルの作成	54
手順 2 : ソフトウェア配置設定	54
手順 3 : SASとSRW のインストールパッケージの作成	55
手順 4 : SASインストールパッケージの作成	58
手順 5 : 配置	60
SASソフトウェアの更新	64
SASインストールデータ	64
SASソフトウェア更新ツール	64
ツールの実行	65
SASソフトウェア更新のダイアログ	65
SASソフトウェアの更新でのQuietモードの使用	68
トラブルシューティング	68
SAS管理者ウィザードによるSASインストールデータの取得	71
SAS管理者ウィザードの起動	71
SAS管理者ウィザードのダイアログと指示	71
SAS管理者ウィザードのメンテナンスモード	73
メンテナンスモードによるサーバーイメージ上のSASインストールデータの更新	74
サーバー上のSASインストールデータを更新する : ダイアログと指示	74
トラブルシューティング	74
メンテナンスモードによるQuiet記録ファイルの作成	75
Quiet記録ファイルの作成 : ダイアログと指示	75
インストール時に対象となるSASソフトウェアの目録を作成	76
SASメタデータサーバーの設定後の配置イメージの作成	76
目録の表示	76
Windowsのシステムフォルダにインストールされるファイル一覧	77
SAS Private JREのインストールについて	78
SAS 9.1.3 をWindows Terminal ServerまたはCitrix MetaFrameシステムにインストール	79
はじめに	79
Terminal Services向けのSAS Systemライセンス供与	79
Terminal ServicesのためのSAS Systemサポート	79
Terminal Server環境のためのSAS Systemの必要要件	80
Terminal Server環境におけるSAS Systemセットアップの準備	80
SAS 9.1.3 のインストール	81
環境設定とパフォーマンスの考慮点	82

WORKディレクトリ-----	82
メモリ-----	82
バッチパフォーマンスとバックグラウンドでのSASの実行-----	83
SASソフトウェアのアンインストール-----	84
コントロールパネルからWindowsの機能によるアンインストール-----	84
コマンドラインからの無人アンインストール-----	84
異なるバージョンが共存する環境でのSASのアンインストール-----	84
Windowsシステムフォルダの削除されないファイル一覧-----	86
手動による削除-----	86

第1部：SAS 9.1.3 Foundation の理解

SAS ログ上の表記

SASログ（インストールログ、またはインストールログではない通常のSASログ）を参照する場合、SAS 9.1.3およびSAS 9.1.3 Foundationは、ログ中では「SAS 9.1 TS1M3」と表記されていることに注意してください。

SAS 9.1.3 のインストールのためのドキュメント

SAS 9.1.3 Foundationでは『システム必要条件』および『インストールガイド』を、プリンタ出力可能なAdobe PDF形式で提供しています。これらのドキュメントは、下記の場所にあります。

- 「Documentation for Installing and Configuring SAS」CD。このCDはインストールキットに含まれています
- SASインストールセンターのWebサイト。SASインストールセンターのURLは、次のとおりです。

[英語] <http://support.sas.com/documentation/installcenter/913/kit/index.html>

[日本語] <http://www.sas.com/japan/service/documentation/installcenter/913/kit/index.html>

システム必要条件

システム必要条件の目次には、大きく分けて6つのセクションがあります。

- 必要なソフトウェア
- 必要なハードウェア
- 追加機能
- 必要なディスク容量
- プロダクト要件
- グラフィックハードウェアおよびソフトウェアの互換性

『システム必要条件』は、System Requirementウィザードを実行する前でも後でも参照することができます。

インストールガイドと設定ガイド

インストールドキュメントは、利用者別に次の3種類が用意されています。これらのドキュメントは、「Documentation for Installing and Configuring SAS」CDおよびインストールセンターのWebサイトにあります。

1. システム管理者は、この『管理者ガイド』を参照してください。

2. 対話的にSASをインストールするエンドユーザーは、『ユーザーインストールガイド』を参照してください。このドキュメントには、システム管理者にも役立つ内容が含まれています。
3. SASのインストール後に、特定のSASプロダクトやSASソリューションの設定を行うユーザーは、『設定ガイド』を参照してください。

「Documentation for Installing and Configuring SAS」CDのドキュメントは、その時点で作成したドキュメントです。最新版のドキュメント（またはその他のインストール関連の情報）は、インストールセンターから入手できます。インストールセンターのURLは次のとおりです。

[英語] <http://support.sas.com/documentation/installcenter/913/kit/index.html>

[日本語] <http://www.sas.com/japan/service/documentation/installcenter/913/kit/index.html>

インストール検証ツール (Installation Qualification Tool)

Installation Qualification Toolは、SAS Systemのインストールイメージを検証するのに使用します。このツールの詳細は、『SASインストール検証ツール ユーザーガイド』を参照してください。

SASのインストールの終了後、Installation Qualification Toolを実行します。[スタート] – [プログラム (Windows XPでは、[すべてのプログラム])] – [SAS] – [SAS 9.1 Utilities] を選択してください。ここからユーザーガイドも参照できます。

Windows 版 SAS の配置における 2 つの開始点

システム管理者にとって、複数台のコンピュータに対するソフトウェアの配置の管理は、大変な業務です。システムに対する要望はエンドユーザーごとに異なります。自分自身でソフトウェアをインストールすることができるユーザーもいれば、そうでないユーザーもいます。

コンピュータの台数が増えるにしたがって、ソフトウェアのインストールを一貫して管理したいというシステム管理側の要望も出てきます。必ずしもエンドユーザーのコンピュータにアクセスできるわけではなく、また、コンピュータごとに単独でソフトウェアをインストールするのは非効率的です。

また、SASのシステム必要条件を満たすように、コンポーネントやモジュールを更新しなければならない場合があります。その場合、SASソフトウェアのインストールを開始するまでに、何度もコンピュータを再起動しなければならない場合があります。ユーザーの業務の妨げにならないために、ユーザーがコンピュータを使用していないときに、ソフトウェアをインストールする必要があります。

SAS 9.1.3 Foundationを最も簡単にインストールするには、SAS Setup Diskからインストールします。このAutoPlayによるインストールを下記に簡単に紹介しています。詳細は、28ページの「SAS Setup DiskからSASをインストール」を参照してください。

SAS 9.1.3を複数台のマシンにインストールする場合、またはマシンごとにインストール後の設定が異なる場合、SAS Software Navigator (SSN) を選択するのが最良の方法です。SSNは、

さまざまなプラットフォームが存在する企業内でSASソフトウェアを配置するために設計されました。詳細は、4ページの「SAS Software Navigator」を参照してください。

Microsoft Windows環境のどちらのインストールの開始点においても、SAS 9.1.3 Foundationのインストールに使用するツールには、SAS管理者ウィザード、System Requirementウィザード、SASセットアップがあります。それぞれのツールについて、まずは対話的な使用方法を説明します。続いて管理者が立ち会う必要のない使用方法、もしくはQuietモードでのツールの使用方法を説明します。

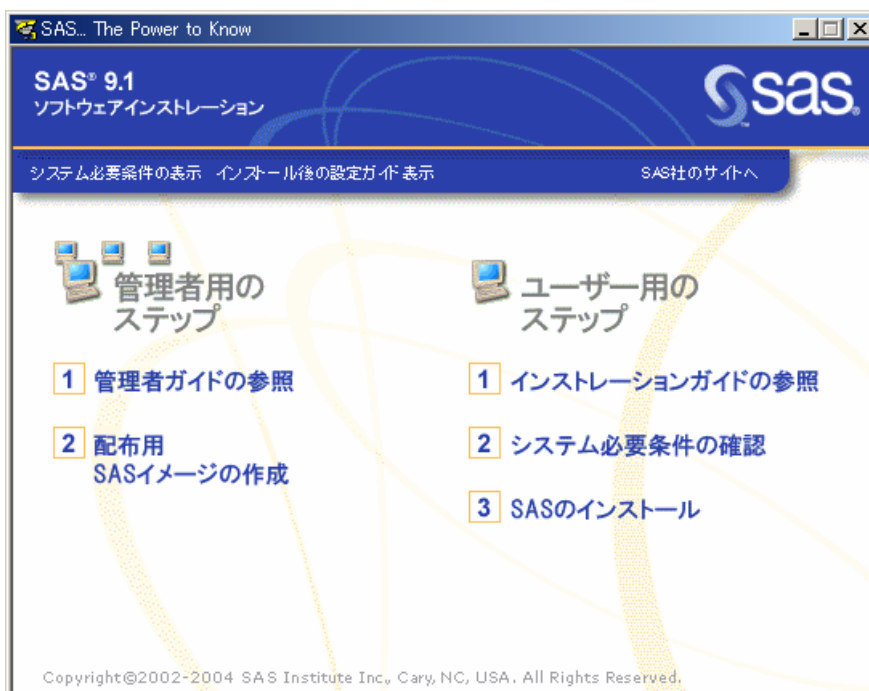
SASを更新する場合、これらのツールは、前のバージョンのファイルと同じ場所に新しいファイルをインストールします。ユーザーにとっては、一定のウィザードウィンドウが表示されないことになり、インストールがより簡単になります。

また、ソフトウェアをインストールする場合、SASセットアップは更新が必要であるかどうかをチェックしています。

そして、セットアップツールは、インストール作業の一部として必要なソフトウェアの更新を適用します。

SAS Setup Disk から起動した AutoPlay

SAS AutoPlayは、SAS 9.1.3 Foundationにおける最も簡単なインストール方法で、SAS Setup Diskを挿入することにより起動します。



AutoPlayのメニューには、インストールを開始するのに必要なリンクがあります。[ユーザー用のステップ]の下には、[インストレーションガイドの参照]、[システム必要条件の確認]、[SASのインストール]があります。

インストールを開始するにあたって、最初に[システム必要条件の確認]を選択することを推奨します。このリンクを選択すると、SAS System Requirementウィザードが起動して、SAS

のインストールに必要なシステム必要条件を満たすようにマシンを更新します。システム必要条件を満たしていないマシンに対してインストールを開始しても、SAS Requirementウィザードを実行するまでインストールを続行することはできません。

AutoPlayにおけるSystem Requirementウィザード

SAS System Requirementウィザードは、SASに必要なコンポーネントやモジュールの指定、更新を行います。実行後、再起動が必要な場合があります。

[システム必要条件の確認] を選択すると、SAS System Requirementウィザードが起動します。[設定言語の選択] が表示された場合、任意の言語を選択して [OK] をクリックします。SAS System Requirementウィザードの残りの手順は、39ページの「SAS System Requirementウィザードの使用」を参照してください。

AutoPlayにおけるSASセットアップウィザード

System Requirementウィザードが終了したら、SAS 9.1.3 Foundationのインストールを行います。[ユーザー用のステップ] の下の [SASのインストール] を選択してください。

インストール中、SASインストールデータ (SID) ファイルが必要になります。SASインストールデータは、SAS社からインストールキットに記載されているSASインストール担当者に対して電子メールで送付されています。インストールキーとオーダー番号は、インストールキットの「SAS Order Information」シートに記載されています。

SASセットアップが表示するダイアログに沿って、SAS 9.1.3 Foundationのインストールが終わるまで作業を続けます。SASセットアップウィザードの残りの手順の説明は、44ページの「SASセットアップウィザードの使用」を参照してください。

SAS Software Navigator

さまざまなプラットフォームに対してインストールを行い、さらに（または）インストール後の設定を行う管理者は、SAS Setup Diskから起動するAutoPlayよりもSAS Software Navigator (SSN) を開始点として使用してください。SSNは、プラットフォームに依存しないで動作するようにJavaで書かれています。

SAS Software Navigatorはインストールツールを起動できるわけではありません。SAS Software Navigatorから、インストール、設定、インストール検証テストに関するPDF形式のドキュメントを参照できます (SSNから参照できるPDF形式のドキュメントは英語版となります)。また、インストールセンター、SASテクニカルサポート、他のプラットフォームのインストールガイドへのリンクもあります。

さまざまなプラットフォーム、さらに（または）複数台のマシンにインストールするシステム管理者は、『SAS Intelligence Platform: Planning and Administration Guide』および『SAS Intelligence Platform: Installation Guide』を参照してください。このドキュメントは、次のWebサイトにあります。

<http://www.sas.com/japan/service/documentation/configuration/index.html>

エンドユーザーの分類

SASソフトウェアを配置する前に、サポート対象となるエンドユーザーの種類を把握します。エンドユーザーは、次の3種類に大別できます。

1. クライアントユーザー

クライアントユーザーは、自分のローカルPCに必要最低限のコンポーネントをインストールしますが、大部分のSASソフトウェアは、管理者が作成したネットワークイメージから実行します。

2. ネットワークにアクセスするパーソナルユーザー（以下パーソナルユーザー）

ネットワークにアクセスするパーソナルユーザーは、管理者が作成したネットワークイメージから、自分のローカルPCで使用するSASソフトウェアをすべてインストールします。

3. ネットワークにアクセスしないパーソナルユーザー（以下CD-ROMユーザー）

ネットワークにアクセスしないパーソナルユーザーは、CD-ROM一式を使用して、自分のローカルPCで使用するSASソフトウェアをすべてインストールする必要があります。

クライアントユーザーモデル

このモデルの長所：

- SASを実行するのに必要なディスク容量が最小限で済みます。
- サーバー上で構成の変更ができ、すべてのクライアントに反映させることができます。SASインストールデータファイル（SETINITを含む）を更新するなどの操作を、より効率的に管理することができます。

このモデルの短所：

- すべてのクライアントの動作が、サーバーに依存しています。サーバーがダウンすると、クライアントはSASを実行できなくなります。
- すべてのクライアントが、ネットワークに強く依存しています。ネットワークのトラフィック量、およびSASサーバーの負荷の増大により、パフォーマンスが妨げられることがあります。

パーソナルユーザーモデル

このモデルの長所：

- インストールしたSASは単体で独立して動作します。ネットワークにもサーバーにも依存していません。サーバーは、インストールを実行する場所としてのみ使用されます。
- すべてのファイルがユーザーのローカルPCに保存されているため、一般的にパーソナルインストールが最も優れたパフォーマンスを発揮します。

このモデルの短所：

- すべてのSAS Systemのファイルは、SASをインストールした個々のコンピュータ上に存在することになります。SASを個々のコンピュータ上で独立して実行するためには、大量のディスク容量が必要になります。

- 更新されたSASインストールデータ（SETINITを含む）などの更新情報は、自動的にエンドユーザーに引き継がれません。更新を行った場合は、サーバーを更新し、次にセットアップを再実行して、個々のコンピュータに変更を反映させなければなりません。

CD-ROM ユーザーモデル

このモデルの長所：

- ユーザーがネットワーク、またはサーバーにアクセスしなくても、カスタマイズされたセットアップ用CD-ROMからインストールすることができます。これは、利用可能なプロダクトに関してより多くの決定権をユーザーに与えることとなります。

このモデルの短所：

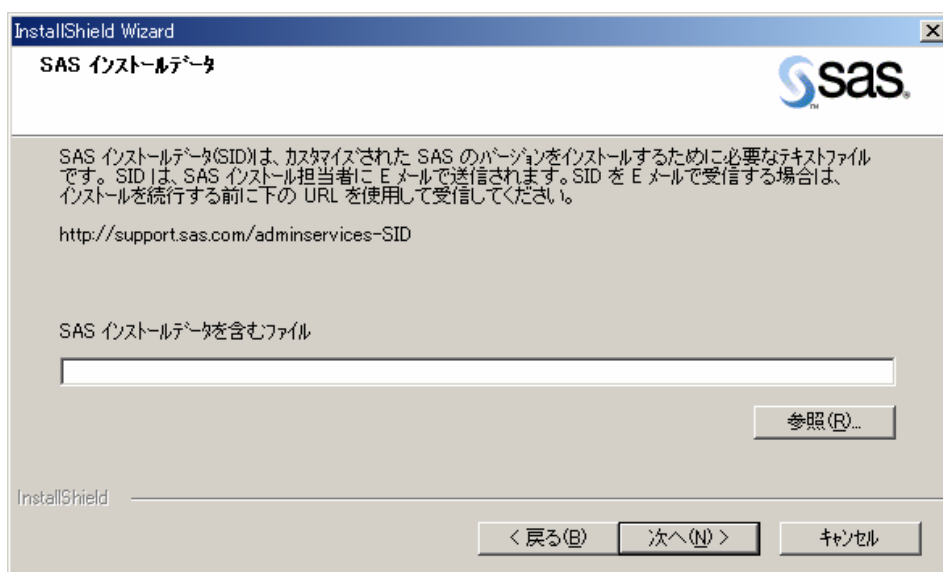
- 個々のユーザーがSASをインストールできるよう、上記の方法などで作成されたCD-ROMをユーザー間で共有したり、複数のCD-ROMのセットを用意して各ユーザーに渡す必要があります。

SAS インストールデータの取得と使用

SASインストールデータファイルには、SETINITとインストールプロセスをカスタマイズするパラメータが収められています。SASソフトウェアのインストールには、SASインストールデータファイルが必要です。

電子メールで送付されたSASインストールデータをディスクに保存している場合、ファイルからSASインストールデータを取得できます。SASソフトウェアのオーダー時に、SASインストール担当者はSAS社からテキストファイルが添付された電子メール（SAS Software Orderメール）を受け取ります。この添付ファイルには、SASインストールデータが収められています。SAS Software Orderメールの指示に従って、添付ファイルをディスクに保存してください。

添付ファイルをディスクに保存しておく、SAS管理者ウィザードとSAS Software Navigatorは、SASインストールデータをファイルオプションで取得することができます。



最初のウィンドウのすぐ次に、[SASインストールデータ] ウィンドウが表示されます。

注意： SASインストールデータは、SAS Software Orderメールに添付してSASインストール担当者宛に送付されています。したがって、通常は画面に表示されているURLにアクセスする必要はありません。[参照] をクリックして、保存したSASインストールデータを指定してください。

SAS 管理者ウィザード

SAS管理者ウィザードは、SAS Setup DiskおよびSAS Software Navigatorから、[配置用SASイメージの作成] を選択することによって起動できます。また、次のコマンドを実行することによっても起動できます。

```
<CD Drive>:¥Disk1¥SAW¥setup.exe
```

SAS管理者ウィザードを使用して、次のタスクを実行できます。

- SASインストールデータファイルの取得
(CD-ROMまたはサーバーイメージから実行できます。SSNからは利用できません)

SASインストールデータファイルには、お客様のSETINITと、ライセンスを取得したソフトウェアを反映してインストールプロセスをカスタマイズするパラメータが含まれています。

- クライアントユーザーのサポート
(SSNの標準インストール、およびCD-ROMから実行できます)

ファイルサーバーとして機能するネットワークイメージを作成し、エンドユーザーはそこからSASを実行します。SAS管理者ウィザードを使用してこのイメージをカスタマイズし、選択したソフトウェアのみエンドユーザーがアクセスするようにします。また、後でこのイメージを使用して、エンドユーザーのPCがSASを実行できるようにします。

- SASパーソナルユーザーのサポート
(SSNの標準インストール、およびCD-ROMから実行できます)

インストールポイントとして機能するネットワークイメージを作成し、エンドユーザーはそこから自分のローカルPCにSASをインストールします。SAS管理者ウィザードを使用してこのイメージをカスタマイズし、選択したソフトウェアだけをエンドユーザーがインストールできるようにします。また、後でこのイメージを使用して、エンドユーザーのPCのハードディスクにSASをインストールできます。

このイメージには、仮想CD-ROMイメージも含まれます。任意のCDライティングソフトウェアを使用して、CD-ROMイメージを焼き付けることができます。このようにして、ネットワークにアクセスできないエンドユーザーのために、インストールCD-ROMを作成できます。

上記のいずれかを実行する場合、常にSAS管理者ウィザードを対話的に使用します。このようなタスクにより、上記の3種類のエンドユーザーに対する、企業でのソフトウェアの配置をサポートする基本的なイメージを作成します。以降のセクションでは、このようなタスクを実行するためのウィザードの使用方法を説明します。

注意： SAS 9.1.3 Foundationでは、各インストールをSAS Metadata Serverに統合し、インストール情報とライセンス情報をまとめて管理することができます。この機能を使用するに

は、最初にSAS Metadata Serverを設定する必要があります。詳細は、76ページの「インストール時に対象となるSASソフトウェアの目録を作成」を参照してください。

SAS管理者ウィザードをSAS Setup Diskから実行すると、インストールプロセスは、[SASインストールデータの取得] ダイアログを表示します。

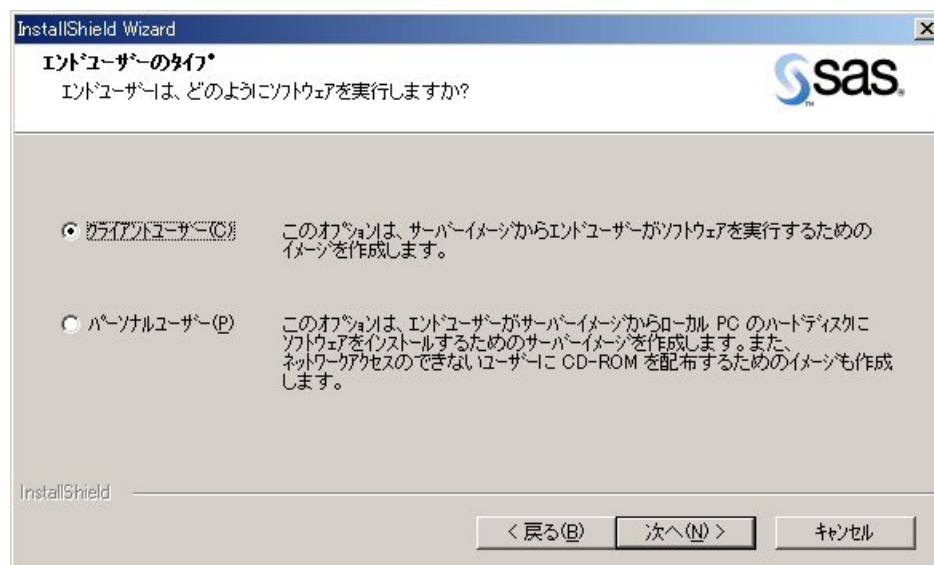
SAS社のWebサイトに接続するには、SASインストールキーとオーダー番号が必要です。チェックボックスを選択することにより、SASインストールデータファイルをディスクに保存することができます。このオプションは、将来的にファイルオプションを使用してSASインストールデータファイル取得する場合に有用です。

SAS管理者ウィザードを進めていくと、SASインストールデータファイルが、作成中のネットワークイメージに統合されます。この結果、エンドユーザーのインストールが、SASインストールデータでカスタマイズされます。このSASインストールデータファイルを使用して、エンドユーザーをサポートする適切なネットワークイメージを作成することができます。

クライアントユーザーのためのイメージの作成

このセクションは、SASインストールデータファイルがすでに取得されていることを前提としています。ここでは、クライアントユーザーをサポートするためのネットワークイメージの作成について説明します。

クライアントユーザーとは、管理者が作成したネットワークイメージから大部分のSASを実行するSASソフトウェアのユーザーのことです。このユーザーに必要なのは、SASセットアップを使用した最低限のインストールであり、ユーザーのローカルPCには少数のコンポーネントしかコピーされません（エンドユーザーが自分のローカルPCにソフトウェアをインストールする場合は、10ページの「パーソナルユーザーのためのイメージの作成」を参照してください）。SAS管理者ウィザードには、エンドユーザーのタイプを指定する [エンドユーザーのタイプ] ダイアログがあります。



このダイアログでは [クライアントユーザー] ラジオボタンを選択しています。続いて表示されるダイアログの1つに [コンポーネントの選択] ダイアログがあります。



[コンポーネントの選択] ダイアログから、クライアントユーザーがネットワークイメージから実行するソフトウェアを指定できます。この方法により、クライアントユーザーが実行できるソフトウェアの種類を制限することができます。

デフォルトでは、[コンポーネントの選択] ウィンドウは、ライセンスされているすべてのソフトウェアを選択した状態が表示されます。SASインストールデータを適用することにより、ライセンスされているソフトウェアを判断し、それらのコンポーネントのみを選択しています。[ライセンスされているソフトウェアを選択] をクリックすると、デフォルトの設定に戻ります。

更新中は、更新を必要とするコンポーネントのみが選択されます。また、これらの選択を取り消すことはできません。

現在ライセンスを受けていないソフトウェアをインストールすることもできます。将来ソフトウェアのライセンスを増やす予定がある場合は、この方法でもかまいません。この方法では、ライセンスを受けていないソフトウェアをインストールしておき、後でライセンスを受けた新しいSASインストールデータファイルを用意して適用することになります。

注意： クライアントは、そのサーバー上にあるすべてのプロダクトへアクセスできます。しかし、既存のサーバーにプロダクトを追加した場合、クライアントは追加されたソフトウェアを使用するためには、更新されたサーバーからセットアップを再実行しなければなりません。

この処理を行うには、エンドユーザーはサーバーからインストールを実行します。SAS SetupのAutoPlayおよびSAS Software Navigatorのリンクが切れている場合、最初のインストールで使用した同じパスを指定し、通常はデフォルトにてセットアップを実行します。設定が完了すると、ユーザーはサーバー上のすべてのプロダクトを使用できるようになります。

目的のソフトウェアを選択したら、SAS管理者ウィザードのダイアログに従い、最後まで進みます。ウィザードが、SASインストールデータファイルに収められているSETINITを適用して、SASソフトウェアを実行するエンドユーザーのためにネットワークイメージを用意します。

この時点で、イメージとして配置するソフトウェアの組み合わせにより、クライアントユーザーをサポートすることができるネットワークイメージの作成が完了します。

このイメージから、System Requirementウィザードを使用して、SASソフトウェアを使用するエンドユーザーのコンピュータを指定します。また、このイメージからSASセットアップを使用して、クライアントユーザーのPCに最低限のインストールも行います。

このイメージを使用して対話的にインストールを行うユーザーは、次のコマンドを実行して、作成したイメージからSASセットアップを実行してください。

```
<Source Path>%Setup.exe
```

<Source Path>は、イメージを作成したときの保存先です。

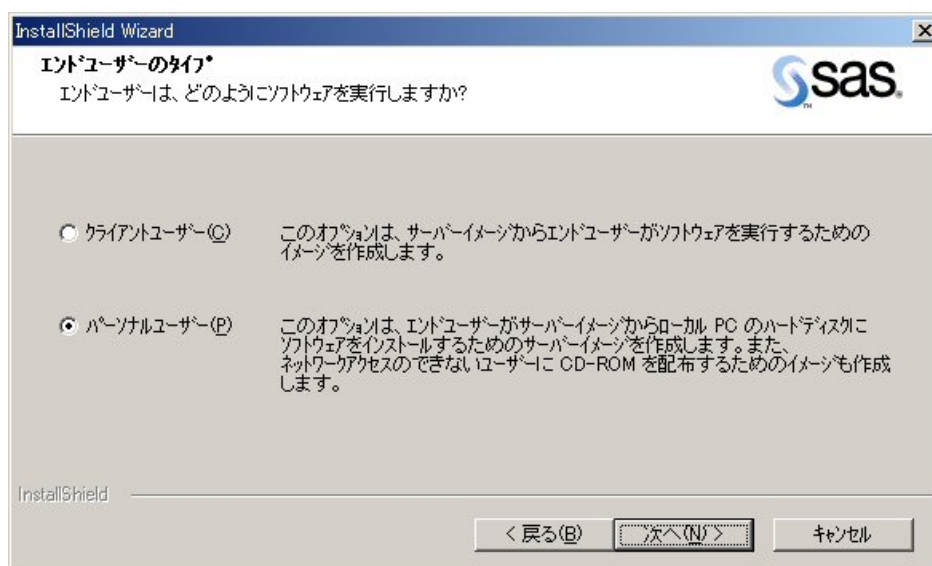
対話型インストールプロセスに関する詳細は、「Documentation for Installing and Configuring SAS」CDおよびインストールセンターのWebサイトにある『SAS 9.1.3 Foundation ユーザーインストールガイド』に記載されています。このドキュメントは、SAS Software Navigatorから「インストレーションガイドの参照」を選択しても参照できます（SAS Software Navigatorから参照できるドキュメントは英語版になります）。

パーソナルユーザーのためのイメージの作成

ここでは、SASインストールデータファイルがすでに取得されていることを前提としています。ここでは、パーソナルユーザーをサポートするためのネットワークイメージの作成について説明します。

パーソナルユーザーとは、自分のローカルPCに使用するすべてのコンポーネントをインストールする、SASソフトウェアのユーザーのことです（エンドユーザーがネットワークからソフトウェアを実行する場合は、8ページの「クライアントユーザーのためのイメージの作成」を参照してください）。

SAS管理者ウィザードには、エンドユーザーのタイプを指定する「エンドユーザーのタイプ」ダイアログがあります。



このダイアログでは、[パーソナルユーザー] ラジオボタンを選択しています。続いて表示されるウィンドウの1つに [コンポーネントの選択] ダイアログがあります。



[コンポーネントの選択] ダイアログで、作成中のネットワークイメージからパーソナルユーザーがインストールできるソフトウェアを指定できます。この方法で、ユーザーがインストールできるソフトウェアを制限できます。

デフォルトでは、[コンポーネントの選択] ウィンドウは、ライセンスされているすべてのソフトウェアを選択した状態で表示されます。SASインストールデータを適用することにより、ライセンスされているソフトウェアを判断し、それらのコンポーネントのみを選択しています。[ライセンスされているソフトウェアを選択] をクリックすると、デフォルトの設定に戻ります。

更新中は、更新を必要とするコンポーネントのみが選択されます。また、これらの選択を取り消すことはできません。

現在ライセンスを受けていないソフトウェアをインストールすることもできます。将来ソフトウェアのライセンスを増やす予定がある場合は、この方法でもかまいません。

目的のソフトウェアを選択したら、SAS管理者ウィザードのダイアログに従い、最後まで進みます。

この時点で、エンドユーザーのローカルPCにインストールするために選択したコンポーネントで構成されるネットワークイメージの作成が完了します。このイメージから、System Requirementウィザードを使用して、SASソフトウェアを使用するエンドユーザーのコンピュータを準備します。この後、このイメージからSASセットアップを使用して、エンドユーザーのPCのハードディスクにソフトウェアをインストールします。

このイメージを使用して対話的にインストールを行うユーザーには、次のコマンドを実行して、作成したイメージからSASセットアップを実行してください。

```
<Source Path>%Disk1%Setup.exe
```

<Source Path>は、イメージを作成したときの保存先です。

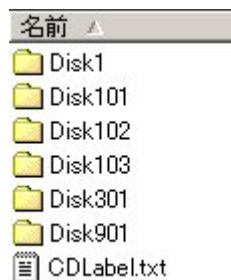
対話型インストールプロセスに関する詳細は、「Documentation for Installing and Configuring SAS」CDおよびインストールセンターのWebサイトにある『SAS 9.1.3 Foundation ユーザーインストールガイド』に記載されています。このドキュメントは、SAS Software Navigatorから [インストールガイドの参照] を選択しても参照できます (SAS Software Navigatorから参照できるドキュメントは英語版になります)。

ネットワークにアクセスしないパーソナルユーザーのための CD-ROM の作成

ネットワークに接続していないユーザーのために、インストールCD-ROMを作成する必要がある場合があります。この方法により、ユーザーがインストールすることができるソフトウェアを制限できます。インストールCD-ROMには、SAS社から受け取ったSASインストールデータファイルを収めることができます。

SAS管理者ウィザードは、選択したエンドユーザーのタイプが「パーソナルユーザー」の場合、自動的にネットワークにCD-ROMイメージを作成します (ネットワークにこのイメージを作成する方法の詳細は、10ページの「パーソナルユーザーのためのイメージの作成」を参照してください)。

パーソナルユーザーのために作成したイメージには、次のようなフォルダ構造があります。



Disk*フォルダには、任意のCDライティングソフトウェアを使用して作成する各ディスクの内容が収められています。CD-ROMには、各ディスクフォルダの内容を書き込みます。ディスクフォルダそのものは書き込まないでください。ネットワークイメージの作成時に選択したソフトウェアにもよりますが、ディスクフォルダには、イメージ中に含まれないものもあります。

CDLabel.txtファイルには、各ディスクに対応するCD-ROMの説明が収められており、書き込み時に適切なラベルをつけることができます。あとで参照できるように、このテキストファイルを印刷しておくことをお勧めします。

メンテナンスモード機能の使用

企業にすでにSASソフトウェアのサーバーがインストールされ稼働している場合は、メンテナンスモードでサーバーイメージ上のSASインストールデータファイルを更新することができます。この処理は、ユーザー数が多い場合のSASインストールデータファイルの更新に有効な方法です。詳細は、74ページの「メンテナンスモードによるサーバーイメージ上のSASインストールデータの更新」を参照してください。

メンテナンスモードは、SASセットアップがQuietモードと共に使用される場合、quiet.iniを記録する開始点になります。詳細は、75ページの「メンテナンスモードによるQuiet記録ファイルの作成」を参照してください。

System Requirement ウィザード

SASソフトウェアをインストールする前に、System Requirementウィザードを各コンピュータ上で実行する必要があります。このウィザードで、以下のタスクを実行し、ソフトウェアに対するシステム必要条件をコンピュータが満たしているかどうかを確認できます。

- PCを分析して、インストールが必要なシステムソフトウェアを決定します。
- インストールが必要なシステムソフトウェアを報告します。
- システム必要条件のレベルに合わせてシステムを更新します
- 必要に応じて、更新中にシステムを再起動します。
- オプションで自動ログオンをサポートし、再起動するたびにユーザーが手動でログオンする手間を減らします。パスワードを入力しないと、自動ログオン機能が無効になります（自動ログオンに関する詳細は、「Microsoft Knowledge Base Articles」の#Q310584、#Q97597、および#Q234572を参照してください）。

System Requirementウィザードは、次のいずれかのモードで実行できます。

- 1 Interactiveモード
ユーザーはダイアログに従って処理を進めます。
- 2 Quietモード
ユーザーはコンピュータの前で待機する必要はありません。このモードは、Microsoft SMS、Tivoliなどの管理パッケージやPC上でソフトウェアを管理するための社内ソリューションと併用し、ログインスクリプトで使用すると便利です。

次のセクションでは、System Requirementウィザードの対話的な使用と、ユーザーに対して表示されるダイアログについて詳しく説明します。その後、ダイアログの自動応答プロセスについても説明します。Quietモードによってウィザードが自動化され操作が楽になるので、企業で大規模にSASを配置する場合にお勧めします。

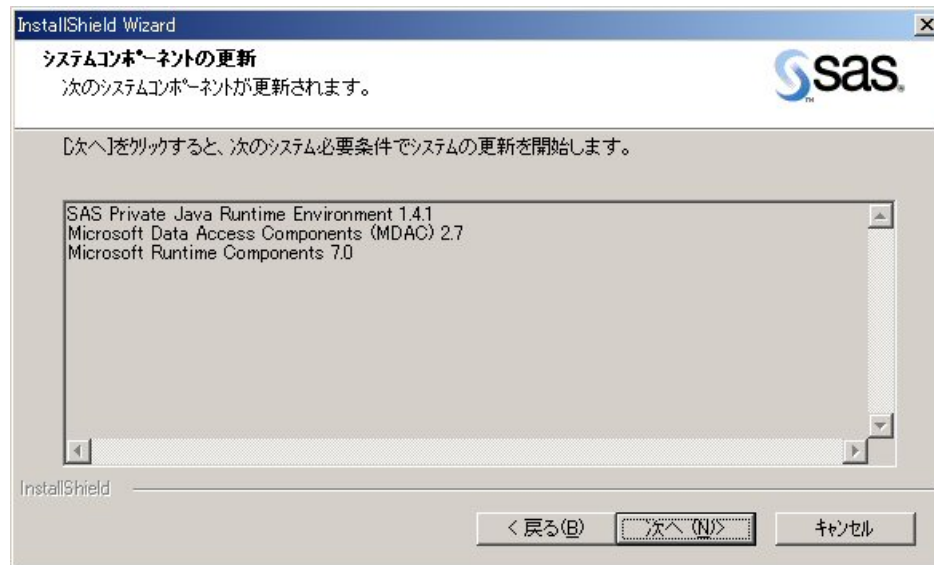
System Requirement ウィザードの対話的な使用

System Requirementウィザードは、[システム必要条件の確認]を選択することにより、SAS Setup Diskから起動したAutoPlayまたはSAS Software Navigatorのどちらからでも対話的に利用できます。このウィザードは、エンドユーザーのタイプ別に、次のコマンドのいずれかで実行することもできます。

- クライアントユーザー： <Source Path>%SRW%SETUP.EXE
- パーソナルユーザー： <Source Path>%Disk1%SRW%SETUP.EXE
- CD-ROMユーザー： <CD Drive>:%SRW%SETUP.EXE (SAS Setup Diskから)

<Source Path>は、SAS管理者ウィザードを使用してネットワークイメージを作成するとき指定したネットワーク上の場所です。<CD Drive>は、CD-ROMが割り当てられているドライブを示します。

ウィザードによるシステムの検査が完了すると、更新に必要なシステムコンポーネントがある場合にはリストが表示されます。



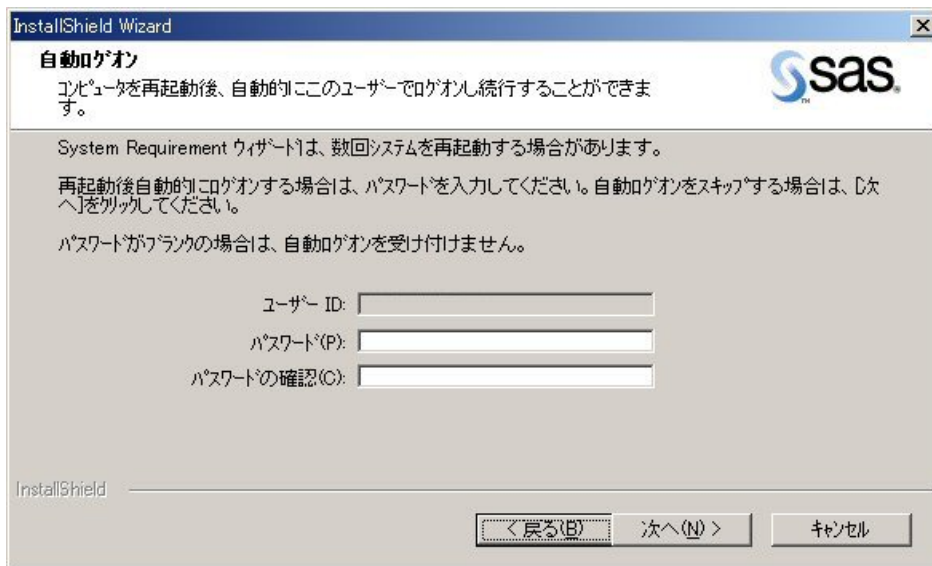
システム必要条件を満たしていれば、ウィザードはそれを意味するメッセージを表示し、更新は行いません。

更新が必要な場合、オペレーティングシステムが使用しているコンポーネントを更新するために、1回以上の再起動が必要になる場合があります。使用中のファイルを解放して更新するには、システムを再起動することが唯一の確実な方法です。

再起動の間のユーザーによる作業を最小限に抑えるために、System Requirementウィザードは、自動ログオンをサポートしています。自動ログオンは、再起動中にWindowsレジストリに有効なユーザーIDとパスワードを一時的に保存します。このユーザーIDとパスワードの組み合わせを使用して、再起動後にシステムに自動的にログオンし、ログオン後はレジストリから削除されます。ウィザードで新たに再起動が必要になると、再度このユーザーIDとパスワードが使用されます。最後の再起動の後、このユーザーIDとパスワードは、Windowsレジストリから削除されます。（自動ログオンに関する詳細は、「Microsoft Knowledge Base Articles」の#Q310584、#Q97597、および#Q234572を参照してください）。

自動ログオンを正常に機能させるためには、PCのハードウェアパスワードを無効にしてください。ハードウェアパスワードを有効にしておくと、システムコンポーネントを正常に更新するために必要な再起動が妨げられます。

System Requirementウィザードでは、自動ログオンに使用される認証情報を入力する必要があります。



自動ログオンを使用する場合は、ここでパスワードを入力します。自動ログオン機能を使用しない場合は、このダイアログの [次へ] をクリックし、[ユーザーID] と [パスワード] フィールドを空白にしておきます。パスワードを入力しないと、自動ログオン機能が無効になります。

このウィザードにより、適切にシステムが更新され、必要に応じてコンピュータが再起動します。自動ログオン機能を使用しない場合は、再起動の合間に手動によるログオンが必要になります。

システム必要条件が満たされると、ウィザードに [完了] ダイアログが表示されます。

System Requirement ウィザードでの Quiet モードの使用

企業で大規模にSASを配置する場合、システムのコンポーネントを更新するときに、コンピュータごとに管理者またはユーザーが待機するのは非現実的です。このようなニーズを満たすために、System RequirementウィザードはQuietモードをサポートしています。

Quietモードにより、ユーザーが不在でも、ウィザードを対話的に実行するときに必要な応答をすべて与えることができます。ユーザーに提示されるダイアログを把握するには、13ページの「System Requirementウィザードの対話的な使用」を参照してください。

QuietモードでSystem Requirementウィザードを実行するには、システム必要条件を更新するコンピュータ上で、コマンドを1行実行します。

実行するコマンドの<Source Path>は、エンドユーザーの種類によって異なります。

- クライアントユーザー : <Source Path>%SRW%SETUP.EXE
- パーソナルユーザー : <Source Path>%Disk1%SRW%SETUP.EXE

ウィザードに与えるコマンド行の引数は、上記で使用した<Source Path>に関係なく一定です。使用方法は以下のとおりです。

使い方：

```
....¥SRW¥SETUP.EXE -s
-f2"<LogFile>" "QuietLog:<LogFile>"
"LogFile:<Full Path To Detailed LogFile>"
["AutoID:MyUserID" "AutoPwd:MyPassword"
"AutoDomain:MyDomain"]
```

例：

```
M:¥MyNetDrive¥SAS¥Setup.exe -s
-f2"C:¥Temp¥Log.txt" "QuietLog:C:¥Temp¥Log.txt"
"LogFile:C:¥Temp¥DetailedLog.txt"
"AutoID:JohnDoe" "AutoPwd:Jane"
"AutoDomain:DoeCompany"
```

注意： Auto*引数はオプションですが、このオプションを省略すると、コンピュータに手動でログオンするまでウィザードが完了しません。

-f2とQuietLogオプションは必須で、作成しようとするログファイルへのフルパスでなければなりません。このログファイルには、ダイアログのフロー応答記録が収められています。作成は必須ですが、通常は無視しても問題ありません。

逆に、LogFileオプションは非常に重要であり、Quietモードでのインストールの詳細なログを保存する場所を指定するために使用されます。

このコマンドは、インストール先のユーザー用のログインスクリプト、Microsoft SMSパッケージ、またはエンドユーザーが不在でもそのコンピュータ上で実行できるようにするその他の方法で使用できます。詳細は、54ページの「Microsoft System Management Server 2.0を使用したSASのインストール」を参照してください。

Quietモードをバッチスクリプトから使用する方法の例は、次のファイルを参照してください。

- sas¥core¥sasinst¥examples¥goquiet.cmd.txt
- sas¥core¥sasinst¥examples¥sasquiet.cmd.txt
- sas¥core¥sasinst¥examples¥srsrquiet.cmd.txt

注意： ネットワークイメージからこれらのファイルを確認する場合は、パスのsas¥coreの前にDisk1をつけます。デフォルトでは、SAS Setup Diskを読みに行きます。

System Requirementウィザードは、JREをインストールします。ユーザーが共有ファイルの場所を指定していない場合、この処理の一部として、System Requirementウィザードは共有ファイルの場所を設定します。共有ファイルの場所を任意に指定する場合は、JREを手動でインストールします。詳細は、43ページの「SAS共有ファイル」を参照してください。

SAS セットアップ

SASセットアップは、ソフトウェアの実際のインストールを実行します。大部分のソフトウェアがネットワークイメージ（クライアントユーザーの場合など）から実行される場合でも、SASソフトウェアが実行されるすべてのコンピュータで実行する必要があります。

SASセットアップは、次の3つのモードのいずれかで実行できます。

- 1 Interactiveモード
ユーザーは待機してダイアログに応答する必要があります。
- 2 Recordモード
Quietモードで使用するQuiet記録ファイルを用意します。このモードは、システム管理者が実行するもので、Quiet記録ファイルで選ばれたコンポーネントを対話的に記録します。Recordモードでは、他のすべての応答をデフォルト値に戻すので、システム管理者は直接Quiet記録ファイルを編集します。
- 3 Quietモード
Recordモードで作成したQuiet記録ファイルを使用して、管理者が立ち会わない状態でSASセットアップを実行します。Quietモードは、管理者が立ち会わない状況で使用することを目的としています。このモードは、Microsoft SMS（54ページ参照）、Tivoliなどの管理パッケージ、またはPC上でソフトウェアを管理するその他の社内ソリューションと併用し、ログインスクリプトに使用するとき便利です。

次のセクションでは、SASセットアップの対話的な使用について説明し、ユーザーに対して表示されるダイアログを紹介します。以降のセクションでは、RecordモードとQuietモードを使用した、これらのダイアログに対する応答の自動化について説明します。企業で大規模にSASを配置する際には、RecordモードとQuietモードをお勧めします。

SAS セットアップの対話的な使用

SASセットアップは、[SASのインストール] を選択することにより、SAS Setup Diskから起動したAutoPlayまたはSAS Software Navigatorから起動できます。このウィザードは、エンドユーザー別に、次のコマンドのいずれかで実行できます。

- クライアントユーザー： <Source Path>%SAS%SETUP.EXE
- パーソナルユーザー： <Source Path>%Disk1%SAS%SETUP.EXE
- CD-ROMユーザー： <CD Drive>:%SAS%SETUP.EXE

<Source Path>は、SAS管理者ウィザードを使用してネットワークイメージを作成するとき指定したネットワーク上の場所です。<CD Drive>は、CD-ROMが割り当てられているドライブを示します。

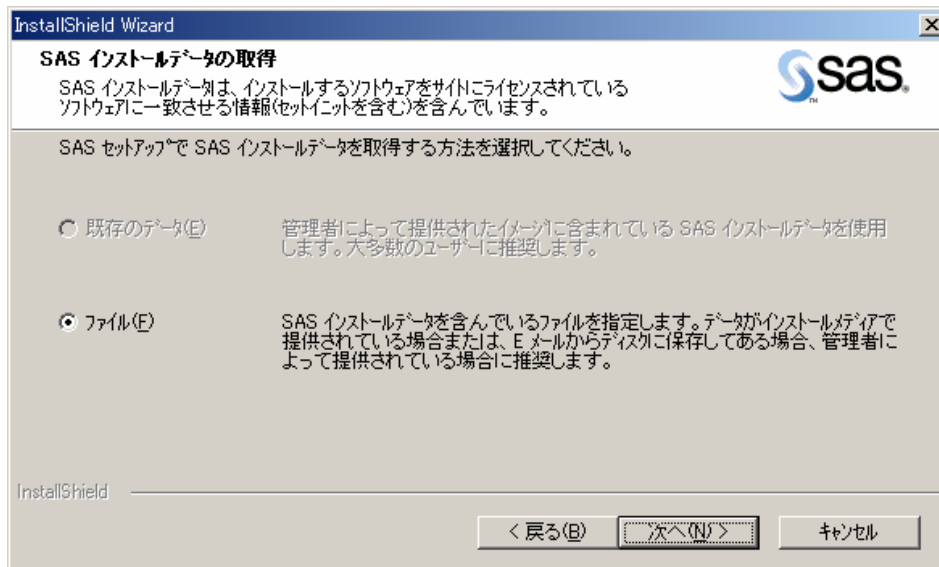
次の説明では、ユーザーに対して表示されるすべてのダイアログを網羅していません。いくつかの重要なダイアログに絞って重点的に説明しています。

SAS インストールデータの提供

このセクションは、作成済みのネットワークイメージまたはCD-ROMからソフトウェアをローカルPCにインストールするユーザーだけに適用されます。クライアントユーザーには、このセクションのダイアログが表示されることはありません。

SASインストールデータファイルは、パーソナルユーザーが、SASソフトウェアの最終インストールを完了するために必要です。システム管理者は、対話的にインストールを行うパーソナルユーザーに対して、インストールを完了させるために必要なSASインストールデータファイルを提供する必要があります。

SAS管理者ウィザードを使用してネットワークイメージを作成すると、（電子メールの添付ファイルとして取得してディスクに保存した）SASインストールデータファイルは、インストールイメージに統合されます。その結果、エンドユーザーが対話的にSASセットアップを実行すると、SASインストールデータファイルを取得する [既存のデータ] と [ファイル] の2つのオプションが表示されます。



SASセットアップでは、[既存のデータ] がデフォルトになっていますが、これはエンドユーザーがネットワークまたはCDイメージに配置された既存のSASインストールデータファイルを使用するケースが多いからです。SASインストールデータファイルを別の場所に保存し、そのフォルダにアクセスするようにユーザーに指示したい場合は、[ファイル] を選択します。

インストールするソフトウェアの選択

ユーザーがローカルPCにソフトウェアをインストールする場合のみ、インストールするソフトウェアを選択する必要があります。この場合、システム管理者がネットワークイメージに配置したソフトウェアから選択することになります。



ユーザーは、[コンポーネントの選択] ダイアログから、自分のローカルPCにインストールしたいソフトウェアを指定できます。

[ライセンスされているソフトウェアを選択] をクリックすると、ライセンス取得済のソフトウェアの情報を持ったSASインストールデータファイルを使用して、ライセンスのあるコンポーネントがあらかじめ選択された状態になります。ネットワークイメージを作成したときに保存したライセンスのないコンポーネントも、ここではユーザーのインストール対象となります。

エンドユーザーがクライアントユーザー用に作成されたイメージからSASセットアップを実行している場合、インストールするソフトウェアを選択するダイアログは表示されませんが、ネットワークイメージを作成したときに保存したソフトウェアにはアクセスできます。最低限必要なコンポーネントだけが、ユーザーのローカルPCにインストールされます。

SAS セットアップでの Record モードの使用

System Requirementウィザードと違い、SASセットアップでは対話形式を使用する場合、ユーザーの応答が必要です。QuietモードでSASセットアップを使用する場合は、応答が多すぎて1行のQuietモードのコマンド行に指定できません。その代わりに、Recordモードを使用して作成されたファイルを指定します。

RecordモードでSASセットアップを起動するには、エンドユーザーの種類別に、以下のコマンドのいずれかを入力します。

- クライアントユーザー： <Source Path>%SAS%SETUP.EXE record
- パーソナルユーザー： <Source Path>%Disk1%SAS%SETUP.EXE record

Quiet記録ファイルを保存する場所を入力します。ここでは、デフォルトを選択することをお勧めします。



これにより、インストール元のネットワークイメージのルートとなるディレクトリにファイルが保存されます。このQuiet記録ファイルの場所を覚えておいてください。QuietモードでSASセットアップを実行するために必要になります。

次に、Quietモード実行中に、このQuiet記録ファイルに選択しようとするソフトウェアコンポーネントを選択します。詳細は、18ページの「インストールするソフトウェアの選択」を参照してください。

Record モードでの Quiet 記録ファイルの編集

インストールするソフトウェアを選択した後、作成されたQuietモードのQuiet記録ファイルが表示されます。



表示されるQuiet記録ファイルには、選択したソフトウェアの情報が保存されています。また、最終インストールに必要なデフォルト設定も保存されています。ソフトウェアのインストール先のパスを変更する場合などは、このファイルを十分に確認することが重要です。

警告行 (DO NOT EDIT BELOW THIS LINE) の下の設定は編集しないでください。Recordモード実行中に、選択したコンポーネントを変更したい場合は、[戻る] ボタンをクリックして [コンポーネントの選択] ダイアログに戻り、選び直してください。さもなければ、Quiet記録ファイルを新規に登録して設定を変更しなければなりません。他の方法でこの情報を変更すると、Quiet記録ファイルが無効になることがあります。

Quiet記録ファイルの編集が終了し、[次へ] をクリックすると、Recordモードが終了します (Recordモードを終了して、任意のテキストエディタを使用して、後でファイルを編集することもできます)。

Quietモードで使用するQuiet記録ファイルの準備が終了しました。Quietモードについては、次のセクションで説明します。

SAS セットアップでの Quiet モードの使用

企業で大規模にSASを配置する場合、インストールの間、コンピュータごとにシステム管理者またはユーザーが待機するのは非現実的です。このようなニーズを満たすために、SASセットアップではQuietモードをサポートしています。

Quietモードには、Recordモード (上記参照) と連携して、ユーザーが不在でもインストール可能な方法があります。ウィザードからユーザーに表示されるダイアログを知るには、17ページの「SASセットアップの対話的な使用」を参照してください。

QuietモードでSASセットアップを実行するには、Recordモード (上記参照) を使用してQuiet記録ファイルを作成し、SASソフトウェアを実行する各コンピュータで1行のコマンドを実行する必要があります。

実行するコマンドの<Source Path>は、エンドユーザーの種類によって異なります。

- クライアントユーザー: <Source Path>%SAS%SETUP.EXE
- パーソナルユーザー: <Source Path>%Disk1%SAS%SETUP.EXE

SASセットアップのコマンド行の引数は、上記で使用した<Source Path>に関係なく一定です。使用方法は以下のとおりです。

使い方:

```
"...%SAS%SETUP.EXE" -s
quietfile="<full path to quiet file>"
-f2"<full path to log file>"
```

例:

```
M:%MyNetDrive%SAS%Setup.exe -s
quietfile="M:%MyNetDrive%SAS%quiet.ini"
-f2"C:%TEMP%QUIET.LOG"
```

注意: -f2オプションで、ログファイルを作成する場所を指定できます。この場合は、このオプションが必要です。このオプションを使用して、書き込み許可のある有効な場所を指定します。有効な場所と書き込み許可がないと、セットアップは失敗の表示をせずに終了することがあります。

このコマンドは、インストール先のユーザー用のログインスクリプト、Microsoft SMSパッケージ、またはエンドユーザーが不在でもそのコンピュータ上で実行できるようにするいくつかのその他の方法で使用できます。

Quietモードをバッチスクリプトから使用する例については、次のファイルを参照してください。

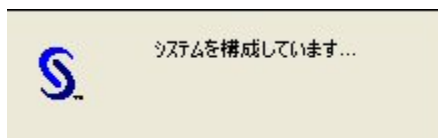
- sas¥core¥sasinst¥examples¥goquiet.cmd.txt
- sas¥core¥sasinst¥examples¥sasquiet.cmd.txt
- sas¥core¥sasinst¥examples¥srwquiet.cmd.txt

注意： ネットワークイメージから上記のファイルを確認する場合は、パスのsas¥coreの前にDisk1を追加してください。デフォルトでは、SAS Setup Diskを読みに行きます。

Quiet モードでの状態のチェック

Quietモードでのインストールが成功したかどうかを判断することは、インストール自体と同様に重要です。Quietモード作動中に、Windowsの [タスクマネージャ] を開いて、 [プロセス] タブにて確認することができます。セットアップが実行されていると、プロセスの中にIKernel.exeとsetup.exeが表示されます。

また、Quietモードによるインストール処理では、-silentstatusオプションを使用することができます。-silentstatusオプションにて実行すると、小さな灰色のウィンドウが表示され、処理内容が表示されます。-silentstatusオプションを使用する場合、ウィンドウはすでに表示されているウィンドウの上に表示されないため、デスクトップの上部右はじのスペースが見えるようにしておいてください。



注意： -silentstatusオプションは、QuietモードのSASセットアップで使用できますが、QuietモードのSystem Requirementウィザードでは使用できません。

Quietモードを終了すると、System RequirementウィザードとSASセットアップから、次の2つの方法でQuietモードの実行結果が出力されます。

- 1 MIFファイル
SMSおよびその他の管理パッケージと併用するためのQuietモードの状態を表示します。使用するツールのインストールの成否に関する情報も含まれます。
- 2 ログファイル
ツールにより実行された動作の詳細を表示します。このファイルは、Quietモードセッションのトラブルシューティングを支援するために設計されています。

Quiet モードの MIF ファイル

Management Information File (MIFファイル)は、Quietモード中に作成されます。このファイルによって、System RequirementウィザードまたはSASセットアップのいずれかの成否を判断す

ることができます。このファイルには、Microsoft SMSによって使用される情報が入っています。この情報は、インストールの成否を判断するプロセスでも使用できます。

MIFファイルは常にTempディレクトリに書き込まれ、デフォルトではSTATUS.MIFという名前になります。Quietモードのコマンド行に-m<FileName>オプションを追加することにより、この名前を上書きできます。

注意： FileNameパラメータには、パスまたは拡張子は含まれません。

MIFファイルには、一連のSTARTおよびENDセクションがあります。ここにインストールの実行に関連する属性を定義します。下記のような「InstallStatus」というセクションで、インストールの成否を判断できます。

```
START GROUP
  NAME = "InstallStatus"
  ID = 2
  CLASS = "MICROSOFT|JOBSTATUS|1.0"
  START ATTRIBUTE
    NAME = "Status"
    ID = 1
    ACCESS = READ-ONLY
    STORAGE = SPECIFIC
    TYPE = STRING(32)
    VALUE = "Success"
  END ATTRIBUTE
  START ATTRIBUTE
    NAME = "Description"
    ID = 2
    ACCESS = READ-ONLY
    STORAGE = SPECIFIC
    TYPE = STRING(255)
    VALUE = "Installation Successful."
  END ATTRIBUTE
END GROUP
```

「Status」と「Description」セッションのVALUE=に、インストールの結果に関する情報が表示されます。この例では、上記の太字の項目で示しているように、インストールは成功しています。

失敗した場合は、上記のフィールドは次のように表示されます。

```
NAME = "Status"
VALUE = "Failed"
NAME = "Description"
VALUE = "Installation aborted by the user."
```

MIFファイルで成功が表示されている場合は、ログファイルを気にする必要はありません。MIFファイルでインストールの失敗が示され、さらにトラブルシューティングが必要な場合は、ログファイルを確認してください。

Quiet モードのログファイル

ログファイルには、ツールの実行中に起こった動作に関する詳しい情報が含まれています。このファイルは、Quietモードのトラブルシューティング時に役立ちます。

System Requirementウィザードのログファイルは、Quietモードのコマンド行に与えられたログファイルオプションで指定したフォルダに書き込まれます。

ログファイルのサンプルは次のとおりです。

```
1-8-2002 11:00:01: Operating System: Windows NT
1-8-2002 11:00:01: Windows NT Service Pack: Service Pack 5
1-8-2002 11:00:01:
1-8-2002 11:00:01: Validating Microsoft Shell Folder Service
5.50.4027.300...
1-8-2002 11:00:01: File Comparison of:
D:\WINNT\System32\shfolder.dll
1-8-2002 11:00:01: System Value: 5.0.2314.1000
1-8-2002 11:00:01: Comparison: #LESSTHAN#
1-8-2002 11:00:01: Required Value: 5.50.4027.300
1-8-2002 11:00:01: Comparison FAILED
1-8-2002 11:00:01:
1-8-2002 11:00:01: Validating Microsoft Internet Explorer 5.0...
1-8-2002 11:00:01: Registry Comparison of:
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Internet Explorer\Version
1-8-2002 11:00:01: System Value: 5.00.2314.1003
1-8-2002 11:00:01: Comparison: #LESSTHAN#
1-8-2002 11:00:01: Required Value: 5.00.2314.1003
1-8-2002 11:00:01: Comparison PASSED
1-8-2002 11:00:01:
1-8-2002 11:00:01: Validating Microsoft Custom Controls Library
5.80.2614.3600...
1-8-2002 11:00:01: File Comparison of:
D:\WINNT\System32\comctl32.dll
1-8-2002 11:00:01: System Value: 5.80.2314.1000
1-8-2002 11:00:01: Comparison: #LESSTHAN#
1-8-2002 11:00:01: Required Value: 5.80.2614.3600
1-8-2002 11:00:01: Comparison FAILED
1-8-2002 11:00:02:
1-8-2002 11:00:02: Validating Microsoft HTML Help Control
4.74.8875...
1-8-2002 11:00:02: File Comparison of: D:\WINNT\System32\hhctrl.ocx
1-8-2002 11:00:02: System Value: 4.73.8412.0
1-8-2002 11:00:02: Comparison: #LESSTHAN#
1-8-2002 11:00:02: Required Value: 4.74.8875.0
1-8-2002 11:00:02: Comparison FAILED
1-8-2002 11:00:02:
1-8-2002 11:00:02: Validating Microsoft Runtime Components...
1-8-2002 11:00:02: File Comparison of: D:\WINNT\System32\mfcd42.dll
1-8-2002 11:00:02: System Value: 4.2.0.6068
1-8-2002 11:00:02: Comparison: #LESSTHAN#
1-8-2002 11:00:02: Required Value: 6.0.8447.0
```

```

1-8-2002 11:00:02: Comparison FAILED
1-8-2002 11:00:02:
1-8-2002 11:00:02: Validating Microsoft Runtime Components...
1-8-2002 11:00:02:
1-8-2002 11:00:02: Validating Microsoft Data Access Components
(MDAC) 2.5...
1-8-2002 11:00:02: Registry Comparison of:
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥DataAccess¥FullInstallVer
1-8-2002 11:00:02: System Value:
1-8-2002 11:00:02: Comparison: #LESSTHAN#
1-8-2002 11:00:02: Required Value: 2.50.4403.12
1-8-2002 11:00:02: Comparison FAILED
1-8-2002 11:00:02:
1-8-2002 11:00:02: Validating Microsoft Jet 4.0 Components...
1-8-2002 11:00:02:
1-8-2002 11:00:02: Installing Microsoft Shell Folder Service
5.50.4027.300...
1-8-2002 11:00:02:
1-8-2002 11:00:02: Installing Microsoft Custom Controls Library
5.80.2614.3600...
1-8-2002 11:00:03: This update has required a reboot. Rebooting...
1-8-2002 11:05:13:
1-8-2002 11:05:13: Installing Microsoft HTML Help Control
4.74.8875...
1-8-2002 11:05:16:
1-8-2002 11:05:16: Installing Microsoft Runtime Components...
1-8-2002 11:05:24: This update has required a reboot. Rebooting...

```

SASセットアップのログファイルは、SASインストールの実行後に作成され、常にSASSETUP.LOGという名前が付けられます。

SASセットアップのログファイルは、インストールが成功した場合は、SASソフトウェアのインストール先のディレクトリに保存されています。インストールが失敗した場合は、SASSETUP.LOGはTEMPディレクトリの下に保存されています。

SAS インストールの更新

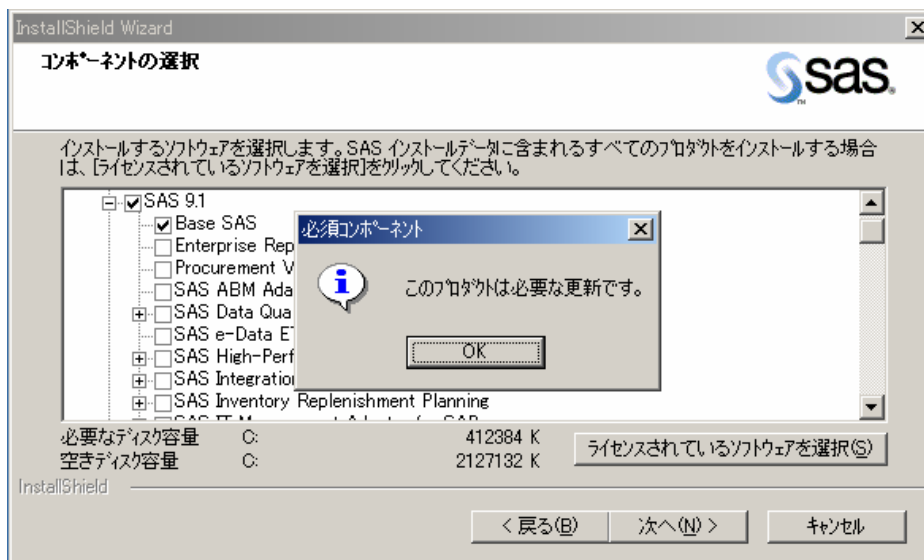
すでにSAS 9.1またはSAS 9.1.2をインストールしている場合、SAS 9.1.3をインストールするにあたって考慮すべきいくつかの点があります。

パーソナルインストールの場合、1台のマシンに対して1つのSAS 9.1 (SAS 9.1、SAS 9.1.2、SAS 9.1.3のいずれか) しかインストールできません。現在のSAS 9.1と新しいバージョンのSASを同じマシン上で共存させることはできません。しかし、組織の中で複数のサーバーイメージがあると有用であれば、1台のマシン上に複数のSAS管理者ウィザードによるインストールを共存させることができます。

下記の表に、アップグレード可能な選択肢を示します。

SAS 9.1.2	SAS 9.1.3にアップグレードできます。
SAS 9.1	SAS 9.1.2およびSAS 9.1.3にアップグレードできます。
SAS 9.0	同じマシン上に、SAS9.1またはSAS 9.1(.x)をインストールできます。
SAS 8.x	同じマシン上に、SAS9.0または/およびSAS 9.1(.x)をインストールできます。

プレプロダクションのSASをインストールしている場合は、事前に削除（アンインストール）する必要があります。



どのようなSASソフトウェアの更新においても、SASセットアップでは更新が必要なSASプロダクト名の選択を取り消すことはできません。

さらに、更新中にSASセットアップの一部のウィンドウを表示しません。したがって、SASセットアップは、インストールするデータおよび一時ファイルについて、以前のインストールで設定した場所を使用することを前提としています。

SAS 管理者ウィザードによる SAS 9.1.3 への更新

サーバーインストールの場合、SAS管理者ウィザードを使用すると4種類のインストール方法があります。

1. 新規のパーソナルユーザー
2. 新規のクライアントサーバー
3. パーソナルサーバーの更新
4. クライアントサーバーの更新

選択した更新方法および以前のサーバーインストールに応じて、現在のSAS 9.1およびSAS 9.1.2をSAS 9.1.3に更新、またはメンテナンスすることができます。

SAS管理者ウィザードで更新するSASの場所を入力する場合、以前にインストールで使用した場所を選択する必要があります。

新規のパーソナルサーバーのイメージを作成し、そのサーバーから更新の配置を行う場合、現在使用しているすべてのプロダクトが更新されることを確認してください。更新されたサーバーは、サーバーインストールを行う個々のマシン上のイメージと一致するプロダクトを含んでいなければなりません。

Quiet モードによる更新の必要条件

Quietモードによる更新を成功させるには、初めにQuietモードによるインストールを記録するのに使用したサーバーイメージを更新しなければなりません。

さらに、新しいquiet.iniファイルに記録する必要があります。更新を行うにあたって考慮すべき点として、すでにSAS 9.1またはSAS 9.1.2がインストールされているマシン上でquiet.iniファイルを記録することは推奨できません。この方法ではプロダクトの選択において制限がかかる場合があります。

Quietモードによるインストールに関しては、50ページの「QuietモードによるSASセットアップの使用」を参照してください。

第 2 部 : インストールと配置の説明

SAS 9.1.3 Foundation インストールツールの使用

システム管理者にとって、企業で大規模にSASソフトウェアの配置やアップデートを実施するには多くの課題があります。Windows版SAS 9.1.3 Foundationのインストールツールにより、これらの課題を克服し、エンドユーザーのニーズを満たすことができます。これらのツールには、SAS管理者ウィザード、System Requirementウィザード、SASセットアップがあります。

これらのツールを使用して、以下を実行できます。

- 任意のソフトウェア管理システム（SMS、Tivoli、ネットワークログインスクリプトなど）を使用した、Quietモードによる多数のコンピュータのシステムの更新およびSASソフトウェアの配置。
- SASのローカルイメージを、PCに対話的にインストールするパーソナルユーザーのサポート。
- ネットワークイメージからSASソフトウェアのカスタマイズされたサブセットを実行するクライアントユーザーをサポート
- ネットワークにアクセスしないユーザーにカスタムインストールCD-ROMを提供

SAS Setup Diskから起動するAutoPlayおよびSAS Software Navigatorの両方から、インストールツールを直接起動することができます。

SAS管理者ウィザードにより、システム管理者はSASインストールデータファイルを統合して、SASのクライアントユーザーやパーソナルユーザーが使用できるように、ネットワークイメージを用意できます。また、ネットワークにアクセスしないユーザーが使用できるようにCD-ROMイメージも用意できます。

System Requirementウィザードにより、SASソフトウェアを実行するコンピュータが、確実にシステム必要条件を満たすことができます。

SASセットアップにより、SASソフトウェアのクライアントユーザーとパーソナルユーザーのソフトウェアをインストールできます。

QuietモードでSystem RequirementウィザードとSASセットアップを使用すると、ユーザーが立ち会うことなく、システムコンポーネントやSASソフトウェアをインストールできます。

これらのツールを併用することで、組織内のSASの配置に対する課題を克服できます。

SAS Setup Disk から SAS をインストール

SAS 9.1.3 Foundationを企業内で大規模に配置する方法はいくつかあります。一方最も簡単にSAS 9.1.3 Foundationをインストールするには、SAS Setup Diskを使用します。

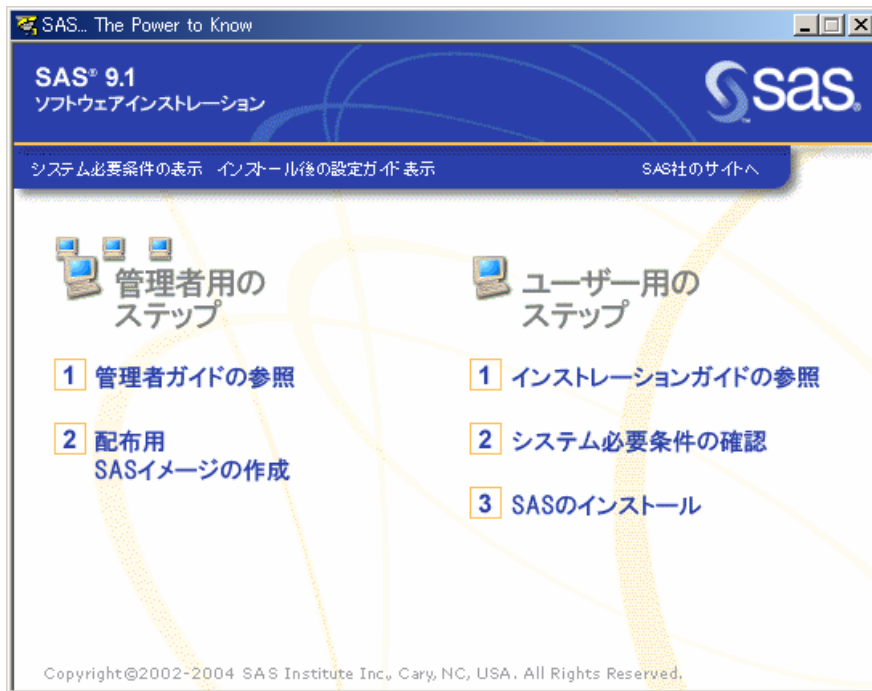
SAS Setup Diskを使用してSAS 9.1.3 Foundationをインストールする手順は、次のとおりです。

1. 管理者（Administrator）でログオンしていることを確認します。
2. インストールキットから「SAS Setup Disk」を探します。

注意： 「SAS Software Navigator Disk」からSAS Software Navigatorを起動している場合、ウィンドウの右上の [X] をクリックして終了してください。SAS Setup DiskからAutoPlayを起動するには、SAS Software Navigatorは終了する必要があります。

3. SAS Setup DiskをCD-ROMドライブに挿入します。

SAS Setup DiskからAutoPlayが起動します。



AutoPlayのメニューには、インストールを続けるのに必要なリンクがあります。[ユーザー用のステップ]の下には、[インストレーションガイドの参照]、[システム必要条件の確認]、[SASのインストール]があります。

インストールを開始するにあたって、最初に[システム必要条件の確認]を選択することを推奨します。このリンクを選択すると、SAS System Requirementウィザードが起動して、SASのインストールに必要なシステム必要条件を満たすようにマシンを更新します。システム必要条件を満たしていないマシンに対してインストールを開始しても、System Requirementウィザードを実行するまではインストールを続行できません。

SAS System Requirement ウィザードの実行

[システム必要条件の確認]を選択すると、SAS System Requirementウィザードが起動します。[設定言語の選択]が表示された場合、任意の言語を選択して[OK]をクリックします。

SAS System Requirementウィザードの残りの手順は、39ページの「SAS System Requirementウィザードの使用」を参照してください。

SAS System Requirementウィザードは、SASに必要なコンポーネントやモジュールの指定、更新を行います。実行後、再起動が必要な場合があります。

SAS セットアップウィザードの実行

System Requirementウィザードが終了したら、SAS 9.1.3 Foundationのインストールを行います。

1. SASセットアップのAutoPlayのメニューに戻ります。
2. [ユーザー用のステップ] の下の [SASのインストール] を選択します。
3. SASセットアップウィザードの最初の画面が表示されます。[次へ] をクリックします。
4. SASインストールデータファイルを取得します。

SASインストールデータ (SIDファイル) は、SASインストール担当者に対して送付されています。インストールキーとオーダー番号は、インストールキットの「SAS Order Information」シートに記載されています。

SASセットアップが表示するダイアログに沿って、SAS 9.1.3 Foundationのインストールが終わるまで作業を続けます。SASセットアップウィザードの残りの手順の説明は、44ページの「SASセットアップウィザードの使用」を参照してください。

SAS 管理者ウィザードの使用

SAS管理者ウィザードは、システム管理者が企業全体にSASを配置するときに必要なタスクの遂行を支援するツールです。

これらのタスクには、サーバー（クライアントユーザー用）やネットワーク環境（パーソナルユーザーとCD-ROMユーザー）の作成があります。さらに、SAS管理者ウィザードを使用して、SETINITデータなどのデータをSAS社から電子メールで入手し、組織内に配布することができます。

SAS 管理者ウィザードの起動

SAS管理者ウィザードを起動する方法はいくつかあります。ここでは、そのうちの3つを示します。

1. SAS Setup DiskからAutoPlayを起動し、[配置用SASイメージの作成]を選択します。
2. SAS Software Navigatorから、[配置用SASイメージの作成]を選択します。
3. SAWディレクトリからsetup.exeを実行します。

SAS 管理者ウィザードのダイアログ

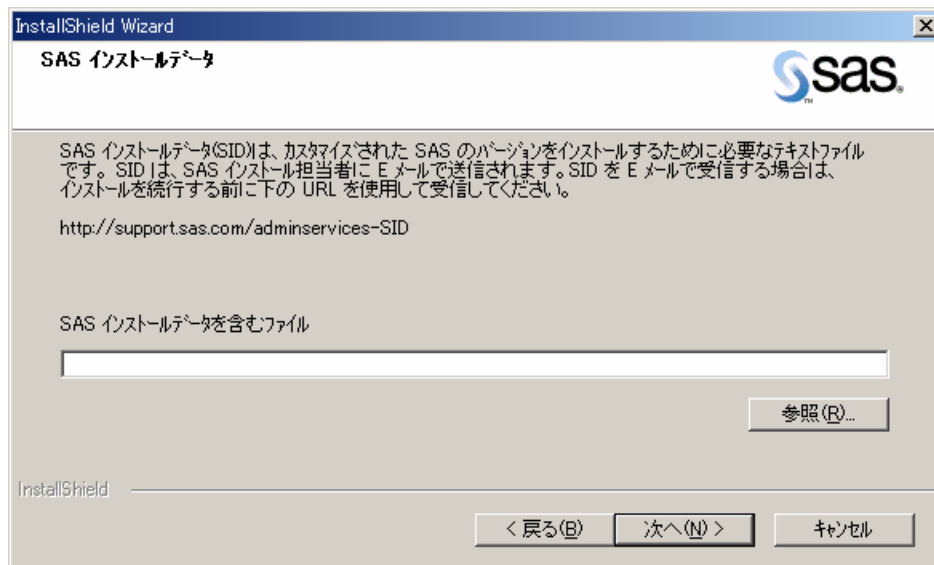
このセクションでは、エンドユーザーがSASをインストールして実行できるように、SASのイメージを配置するために必要な手順を説明します。システム管理者は、各ダイアログが表示されたら、それに従って操作してください。

SAS 管理者ウィザードダイアログの順序

インデント表示の部分は、場合によっては表示されないウィンドウを表しています。

- [SAS管理者ウィザードへようこそ]
- [SASインストールデータ]
- [エンドユーザーのタイプ]
 - [セットアップステータス]
- [インストールする言語コンポーネントの選択]
- [インストールフォルダの選択]
- [コンポーネントの選択]
- [ファイルタイプの選択]
- [SASメタデータサーバー]
- [ファイルのコピー開始]
 - [セットアップステータス]
- [SAS管理者ウィザードは完了しました]

SAS 管理者ウィザードのダイアログと指示



☞ [SAS管理者ウィザードによるこそ] が表示されます。記述されている内容を確認し、[次へ] をクリックします。

☞ [SASインストールデータ] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

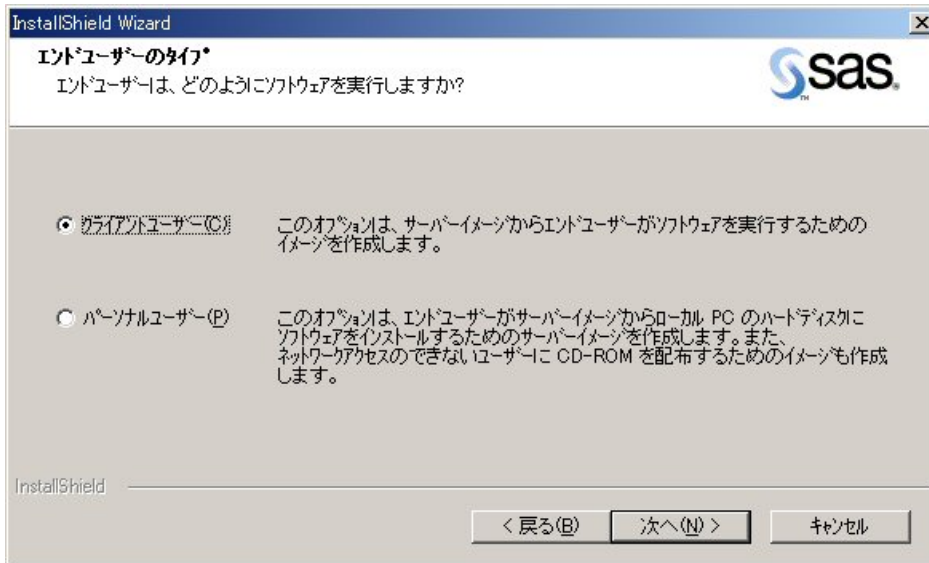
SASインストールデータファイルには、SASソフトウェアの実行に必要なSETINIも含まれています。

☞ SASインストールデータファイルの保存場所のフルパスとファイル名を入力します。

または、[参照] をクリックして別の場所を探します。

[次へ] をクリックします。

注意： SASインストールデータは、SAS Software Orderメールに添付してSASインストール担当者宛に送付されています。したがって、通常は画面に表示されているURLにアクセスする必要はありません。[参照] をクリックして、保存したSASインストールデータを指定してください。



☞ 「[エンドユーザーのタイプ]」が表示されます。記述されている内容を確認してください。

2つのラジオボタンのうち、SASソフトウェアをインストールするユーザーに該当するラジオボタンをクリックします。

- [クライアントユーザー]
- [パーソナルユーザー]

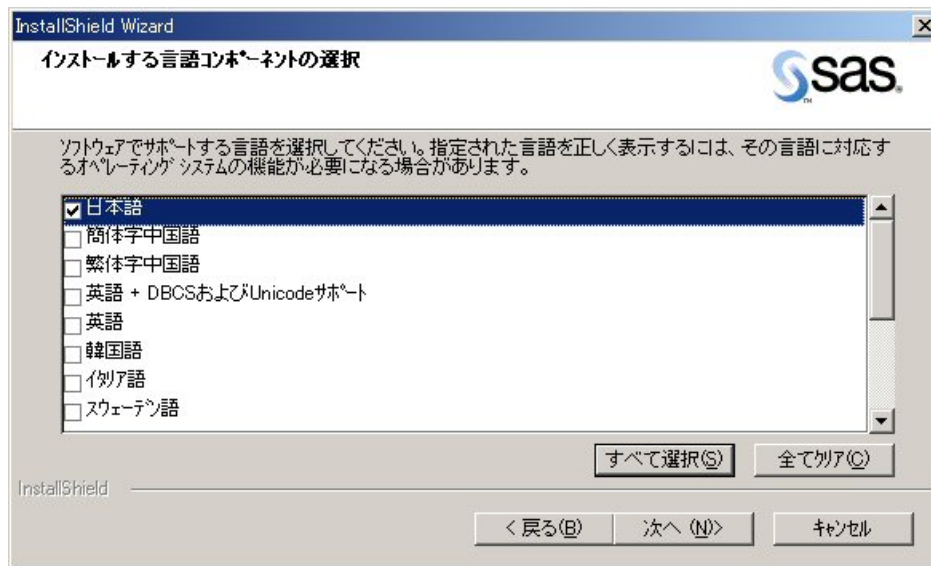
クライアントユーザーは、SASサーバーに関連付けられているPC上でSAS Systemを実行します。

パーソナルユーザーは、自分のPCにインストールしたソフトウェアからSAS Systemを実行します。

ネットワークにアクセスしないユーザーがSASソフトウェアをインストールできるようにCD-ROMを作成するには、[パーソナルユーザー]をクリックします。

クライアントユーザーとパーソナルユーザーに関する詳細は、28ページを参照してください。

[次へ] をクリックします。



- ④ 「インストールする言語コンポーネントの選択」が表示されます。記述されている内容を確認してください。

必要な言語オプションのチェックボックスをクリックします。

または、「すべて選択」をクリックして、使用可能な言語をすべて選択するか、「すべてクリア」をクリックして選択を取り消します。

「次へ」をクリックします。

- ④ 「インストールフォルダの選択」が表示されます。記述されている内容を確認してください。

表示されたパスを使用して、ネットワークイメージを保存する場所を指定できます。または、「参照」をクリックして別の場所を選択します。

「次へ」をクリックします。



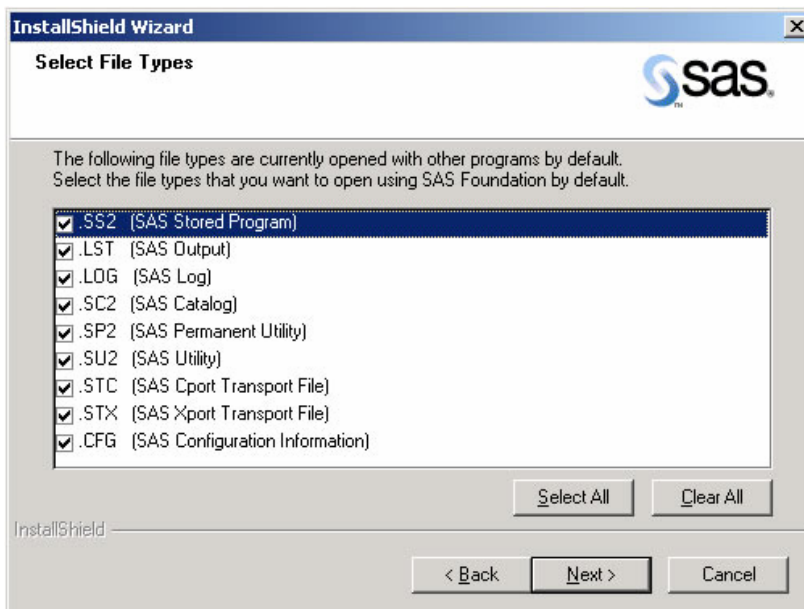
☞ [コンポーネントの選択] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

標準では、インストールできるコンポーネントがすべて表示され、インストール対象のソフトウェアを選択できます。SASインストールデータを適用することにより、ライセンスされているソフトウェアを判断しています。

[ライセンスされているソフトウェアを選択] をクリックして、SASインストールデータファイルに含まれているすべてのプロダクトをインストールします（またはデフォルト設定に戻します）。

リストを変更するには、インストールするコンポーネントを選択するか、インストールしないコンポーネントの選択を取り消します。更新中は、更新を必要とするコンポーネントのみが選択されます。また、これらの選択を取り消すことはできません。

[次へ] をクリックします。

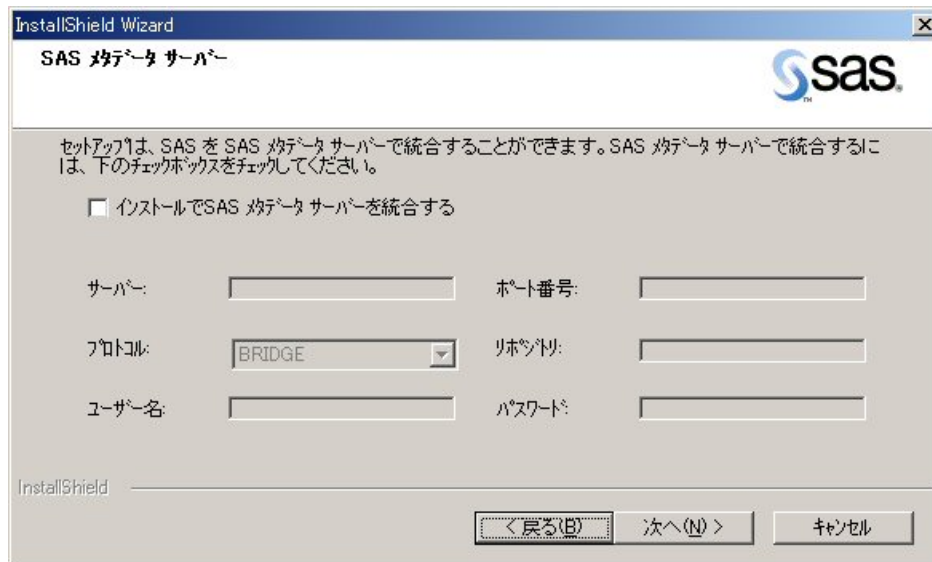


☞ [ファイルタイプの選択] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

このウィンドウは、使用しているマシン上で、すでにアプリケーションに関連付けられているファイルタイプ、およびそれらのファイルタイプを使用するSASストアプログラムを表示します。このリストの内容を変更するには、各チェックボックスで、SASソフトウェアに関連付けるファイルタイプを選択し、関連付けたくないファイルタイプの選択を外します。

[すべて選択] をクリックすると、すべてのファイルタイプを選択したデフォルトの状態になります。[すべてクリア] をクリックするとすべての選択を取り消します。

[次へ] をクリックします。



☞ [SASメタデータサーバー] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

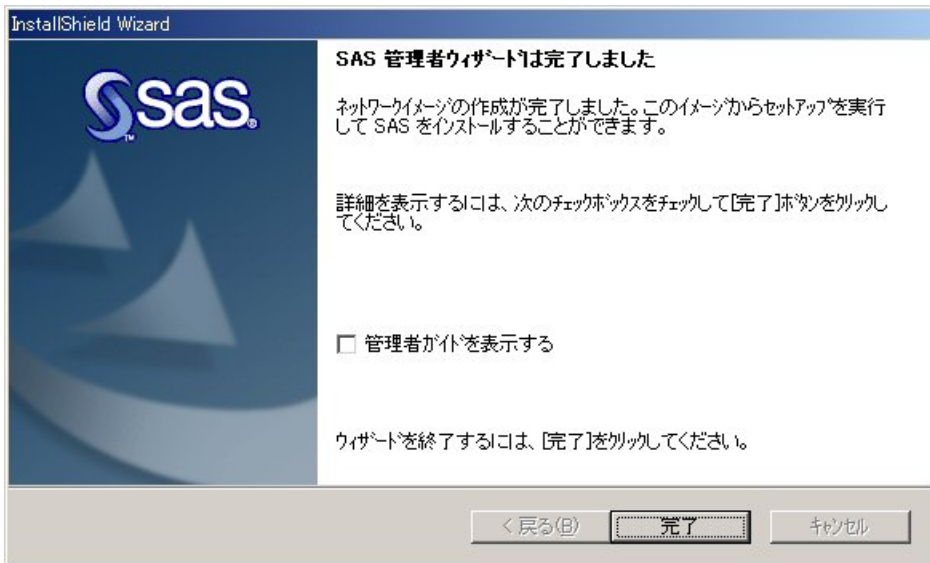
インストールをSASメタデータサーバーと統合し、インストールとライセンス情報をまとめて管理する場合、チェックボックスをクリックします。この機能を使用するには、最初にSASメタデータサーバーを設定する必要があります。詳細は、76ページの「インストール時に対象となるSASソフトウェアの目録を作成」を参照してください。

このウィンドウには、6つのフィールドがあります。[サーバー]、[ポート]、[プロトコル]（BRIDGEまたはCOM）、[リポジトリ]、[ユーザー名]、[パスワード]です。

現在の設定で問題がない場合、[次へ] をクリックします。

☞ [ファイルのコピーの開始] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

現在の設定で問題がない場合、[次へ] をクリックします。



- ④ 「SAS管理者ウィザードは完了しました」が表示されます。記述されている内容を確認してください。

このダイアログには、ネットワークイメージが正しく作成されたことが表示されます。このイメージを使用してSASソフトウェアをインストールするPC上で、クライアントセットアップを実行できます。

「管理者ガイド」を表示する場合は、「管理者ガイドを表示する」チェックボックスをクリックします。

クライアントイメージをPCに配置する場合は、次はQuietモードに進みます。

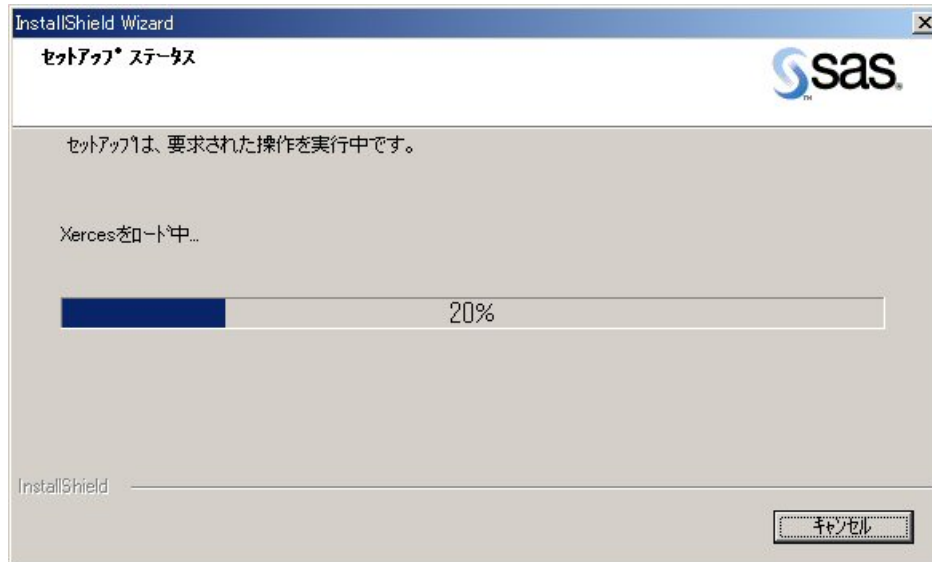
QuietモードとSASセットアップの詳細は、44ページの「SASセットアップウィザードの使用」を参照してください。

Microsoft System Management Server (SMS)、Tivoli、および同様の製品を使用して、Quietモードでクライアントをインストールすることができます。SMSによるSASのインストールに関する情報は、54ページを参照してください。

[完了] をクリックします。

SAS 管理者ウィザードで複数回使用するダイアログ

SAS管理者ウィザードの実行中、必要に応じて次の2つのウィンドウが表示されます。



[セットアップステータス]

このウィンドウは、セットアップが要求された操作を実行している間に表示されます。システム管理者側で必要となる操作はありませんが、必要であれば、[キャンセル] をクリックして、SAS管理者ウィザードを終了できます。

[セットアップの中止]

[SAS管理者ウィザード] ダイアログで [キャンセル] をクリックすると、このウィンドウが表示されます。終了する場合は [はい] を、前のウィンドウに戻る場合は [いいえ] をクリックします。

System Requirement ウィザードの使用

System Requirementウィザードにより、SAS Systemをインストールする前に、コンピュータがシステム必要条件を満たしているか確認できます。

オペレーティングシステムの更新

System Requirementウィザードにより、オペレーティングシステムの一部であるシステムコンポーネントが更新されることがあります。これらのコンポーネントを適切なレベルに更新することは、SAS Systemのインストールを成功させる上で重要です。

System Requirementウィザードによって更新する必要があるシステムコンポーネントが、オペレーティングシステムで使用されている可能性があります。この状況では、使用中のシステムコンポーネントを正しく更新するために、コンピュータを再起動する必要があります。

アンチウイルスソフトウェアおよびファイアウォールソフトウェアを終了する

System Requirementウィザードを起動する前に、アンチウイルスソフトウェアおよびファイアウォールソフトウェアを終了させることをお勧めします。これにより必要な再起動の回数を最小限にできます。必要な再起動の回数は、System Requirementウィザードを実行した時に、コンピュータにインストールされるシステムコンポーネントのレベルにより決定するため、コンピュータによって異なります。

いくつかのアンチウイルスおよびファイアウォールソフトウェアは、SASをインストールする上で障害となります。アンチウイルスおよびファイアウォールソフトウェアを終了できない場合、この構成でインストールするおよびレジストリを更新する権限があるかどうかを確認してください。アンチウイルスおよびファイアウォールを終了することが許可されず、かつSASのインストールが失敗する場合、システム管理者に問い合わせてください。

System Requirement ウィザードの起動

System Requirementウィザードを起動するには、次の手順を実行します。

1. 「Setup Disk」というラベルのついたCD-ROMをドライブに挿入します。コンピュータでオートランが有効になっている場合は、SAS 9.1.3 FoundationのAutoPlayが起動します。

表示されない場合は、Windowsの [スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、下記のように入力します。

```
<source_drive>:¥SETUP.EXE
```

<source_drive>は、SAS 9.1.3 Foundationインストールメディアが挿入されているドライブ名です。

2. リストから、[システム必要条件の確認] を選択します。

システム必要条件の更新

System Requirementウィザードを起動した後、次の手順を実行します。

1. [System Requirementウィザード] ダイアログをよく読み、[次へ] をクリックします。
2. System Requirementウィザードで、更新すべきシステムコンポーネントの全リストが表示されます。リストを確認し、[次へ] をクリックします。

コンピュータがすでにシステム必要条件を満たしている場合は、更新が必要でないことを示すダイアログが表示されます。

3. 手順2でリスト表示されたシステムコンポーネントに対して、更新プロセスが開始されます。システムコンポーネントのなかには、コンピュータの再起動が必要なものもあります。再起動ダイアログの指示を確認してください。
 - 再起動を選択すると、ログオンプロセスに続いて、System Requirementウィザードが自動的に再起動します。
 - 再起動を選択しないと、System Requirementウィザードが終了します。システムコンポーネントの更新を継続する準備が整ったら、System Requirementウィザードを再実行します。
4. すべてのシステムコンポーネントが更新されると、[システムの更新が終了しました] ダイアログが表示され、コンピュータがSAS 9.1.3 Foundationのシステム必要条件に更新されたことが示されます。

SAS 9.1.3 Foundationのクライアントまたはパーソナルのインストールを始める場合は、「Microsoft Windows版SAS 9.1.3 Foundation ユーザーインストールガイド」を参照してください。

System Requirement ウィザードのダイアログ

このセクションでは、システムをソフトウェアに対して、必要条件に更新するために必要な手順を説明します。

システム管理者は、System Requirementウィザードを実行し、各ウィンドウが表示されたら、ダイアログに応答します。インデント表示の部分は、場合によっては表示されないダイアログを表しています。

☞ [System Requirementウィザードへようこそ] が表示されたら、記述されている内容を確認し、[次へ] をクリックします。

☞ [自動ログオン] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

System Requirementウィザードでは、再起動が数回必要になることがあります。再起動した後、自動的にログオンしたい場合は、[パスワード] にパスワードを入力します。これはオプションですので、[次へ] をクリックして自動ログオンをスキップすることもできます。パスワードを入力すると、[パスワードの確認] フィールドに再度パスワードを入力する必要があります。

[次へ] をクリックします。

- ☞ [システムコンポーネントの更新] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

このダイアログでは、システム上で更新されるシステムコンポーネントの名前が表示されます。

[次へ] をクリックします。

- ☞ [Windowsの再起動] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

このダイアログでは、システム上で更新されたシステムコンポーネントの名前が表示されます。そして、コンピュータの再起動が必要であることが表示されます。直ちにコンピュータを再起動することをお勧めします。

以下の2つのラジオボタンの1つをクリックします。

- [はい、今すぐコンピュータを再起動します]
- [いいえ、あとでコンピュータを再起動します]

再起動を選択した場合は、開いているすべてのアプリケーションを閉じ、ディスクドライブに入っているフロッピーディスクがあれば取り出します。

コンピュータの再起動後、ウィルススキャンプログラムがすべて無効になっているかどうか確認します。

コンピュータが再起動すると、[システムコンポーネントの更新] に戻ります。コンピュータを起動しても [システムコンポーネントの更新] に戻らない場合は、SAS Setup Diskから起動したAutoPlayまたはSAS Software Navigatorから [システム必要条件の確認] を選択してSASセットアップを再起動してください。

[完了] をクリックします。

[システムの更新は必要ありません] が表示された場合は、使用するマシンが選択したSASプロダクトが要求するシステム必要条件を満たしていることを示します。

[完了] をクリックします。

- ☞ [システムの更新が完了しました] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

このダイアログでは、System Requirementウィザードがシステムを更新したことが表示されます。

[完了] をクリックします。

Quiet モードによるシステム必要条件の配置

System Requirementウィザードは、企業全体のシステム更新を行うシステム管理者をQuietモードでサポートすることを考慮して設計されています。

System RequirementウィザードをQuietモードにて実行すると、すべての更新が完了するまでシステムは更新を行い、再起動し、自動的にログオンします。

セキュリティに関する注意

AutoID、AutoPwd、AutoDomainのコマンド行に引数を使用することで、セキュリティがリスクにさらされる可能性があります。これらの引数に指定される情報は、しばらくの間Windowsレジストリにプレーンテキストで保存されます。System Requirementウィザードでコンピュータを更新する短時間のあいだに、そのアカウントに与えられる許可をいくつか取得します。コンピュータに物理的にアクセスできれば、そのアカウントでコンピュータを操作できます。こうして、本来アクセスできない人が、コンピュータの内容やネットワークにアクセスできるようになる恐れがあります。

コマンド

次のコマンド行引数を使用して、QuietモードでSystem Requirementウィザードを起動します。

-f2<ログファイル名>

f2オプションで、ログファイルを作成する場所を指定します。このオプションを使用して、書き込み許可のある有効な場所を指定します。有効な場所と書き込み許可がないと、System Requirementウィザードは、失敗の表示をせずに終了することがあります。

-s

このスイッチは、セットアップをQuietモードで実行するよう指定するものです。

AutoID:<ユーザー名 (アカウント) >

AutoIDは、自動再起動後、システムにログオンし直すために使用されるアカウントを指定するために使用します。

AutoDomain:<ドメイン名>

AutoDomainは、再起動後システムをログオンすべきドメインを指定します。

AutoPwd:<パスワード>

AutoPwdは、後続する自動ログオンを可能にするAutoIDのパスワードを指定します。

LaunchApp:<アプリケーション(フルパス)>

LaunchAppにより、ユーザーはSystem Requirementウィザードの更新が終わった後、別のアプリケーションを起動できます。System Requirementウィザードの終了後にSASのインストールを起動し、個人的なログインツールを実行するときに便利です。

LogFile:<ログファイル名>

ログファイルには、QuietモードでのSystem Requirementウィザードによって実行される操作に関するより詳しい情報が含まれています。この中には、更新が必要なコンポーネントや、再起動が必要な場合のリストが含まれています。

QuietLog:<ログファイル名>

QuietLogスイッチを使用して、Quietセットアップの結果を記録（ログ）する場所を指定します。このログファイルは、-f2スイッチと組み合わせて使用し、同じログファイルを参照するようにします。

例：

```
<source drive> = %SRW%
Setup.exe -s -f2"c:%temp%srw.log" "QuietLog:c:%temp%srw.log"
  "LogFile:<Full Path To Detailed LogFile>" "AutoID:<userid>"
  "AutoPwd:<password>" "AutoDomain:<DOMAIN>"
```

```
<source drive> = %Disk1%SRW%
Setup.exe -s -f2"c:%temp%srw.log" "QuietLog:c:%temp%srw.log"
  "LogFile:<Full Path To Detailed LogFile>" "AutoID:<userid>"
  "AutoPwd:<password>" "AutoDomain:<DOMAIN>"
```

バッチスクリプト

Quietモードをバッチスクリプトから使用する例については、次のファイルを参照してください。

- sas\core\sasinst\examples\goquiet.cmd.txt
- sas\core\sasinst\examples\sasquiet.cmd.txt
- sas\core\sasinst\examples\srwquiet.cmd.txt

SAS 共有ファイル

インストールしたファイルの中には、複数のSASプロダクト間で共有されるファイルもあります。これらのファイルはSAS共有ファイルを格納する場所に保存されます。SAS Private JREの場合、SAS共有ファイルがどの場所に保存されたのかがユーザーに通知され、その場所はレジストリに登録されます。

共有ファイルの場所がすでに設定されている場合、ユーザーはPrivate JREのインストール中に共有ファイルの場所を選択することはできません。

System Requirementウィザードは、JREをインストールします。共有ファイルの場所をまだ指定していない場合、ユーザーは場所を指定することができます。

共有ファイルの位置を指定するには、disk1\srw\bundles\sasjre\jresetup.exeを実行して、JREを手動でインストールします。

SAS セットアップウィザードの使用

SASセットアップは、エンドユーザーのシステムにSASソフトウェアをインストールするために設計されたツールです。

SASセットアップは、クライアントユーザーイメージから実行してSASクライアントを作成することができます。また、CD-ROMまたはネットワーク上の場所から実行して、SASのパーソナル用コピーを作成することができます。

注意： SASソフトウェアをインストールする前に、System Requirementウィザードを実行して、PCがシステム必要条件を満たしているか確認してください。詳細は、39ページの「System Requirementウィザードの使用」を参照してください。

SAS セットアップウィザードの起動

SASセットアップウィザードを起動するには、次の3通りの方法があります。

1. SAS Setup Diskから起動したAutoPlayから、[SASのインストール] を選択します。
2. SAS Software Navigatorから、[SASインストール] を選択します。
3. SAWディレクトリからsetup.exeを実行します。

SAS セットアップを実行する 3つの方法

3通りの方法でSASセットアップを実行して、SASを配置できます。

Interactive モード

このインストールでは、SASセットアップを利用して対話的に操作できます。ユーザーが各ウィザードのダイアログに対して回答することにより、どのようにSASをインストールするか指定できます。このタイプのインストールでは、SASセットアップを実行したシステム上でSASが動作することになります。

Record モード

このタイプのインストールは、Quietモードを使用してSASを配置したいシステム管理者を対象に設計されています。Recordモードで実行することにより、システム管理者は、無人でSASをインストールするために使用するQuietモードのINIファイルを作成し、カスタマイズできます。Recordモードによるインストール中は、SASファイルはコピーされません。1つのテキストファイル（QuietモードのINIファイル）だけが作成されます。

Quiet モード

このタイプのインストールでは、QuietモードのINIファイルにより操作が進められます。ファイルにはSASのインストール方法に関する情報が収められています。システム管理者は、Quietモードを配置ツールとして使用することにより、それぞれのコンピュータまで出向くことなく、

複数のコンピュータに同時にSASをインストールできます。QuietモードでSASセットアップを実行すると、インストールを行ったシステム上ですべての機能が動作するSASになります。

詳細は、50ページの「QuietモードによるSASセットアップの使用」と、41ページの「Quietモードによるシステム必要条件の配置」を参照してください。

SAS セットアップのダイアログ

このセクションでは、SASをインストールし、実行するために必要な手順を説明します。システム管理者は、各ダイアログが表示されたら応答してください。

インデント表示の部分は、場合によっては表示されないダイアログを表しています。

複数回表示される以外のすべてのセットアップダイアログを、SASセットアップが表示する順序にしたがって、以下に示します。複数回表示されるダイアログは、48ページにまとめてあります。

☞ [SASセットアップウィザードによるこそ] が表示されます。記述されている内容を確認し、[次へ] をクリックします。

☞ [システム必要条件のチェック] が表示されたら、記述されている内容を確認してください。

[完了] をクリックして、System Requirementウィザードを実行します。

詳細は、39ページの「System Requirementウィザードの使用」を参照してください。

System Requirementウィザードがシステムを更新した後、SASインストールを再起動します。

SASインストールデータ (SIDファイル) には、ライセンス情報、インストールをカスタマイズするスクリプトが含まれています。SASソフトウェアをオーダーすると、SAS社から貴社のインストール担当者に電子メール (SAS Software Orderメール) が送信されます。この電子メールにはSASインストールデータがテキストファイルとして添付されています。

インストール担当者の名前は、インストールキットの「SAS Order Information」シートに記載されています。

☞ [SASインストールデータ] が表示されたら、記述されている内容を確認してください。

SASインストールデータのフルパス名を入力するか、[参照] をクリックしてディレクトリを指定します。

SASインストールデータが見つからない場合、エラーメッセージが表示されます。

[次へ] をクリックします。

☞ [SASインストールデータの取得] が表示されたら、記述されている内容を確認してください。

ウィンドウに表示されているライセンスされているソフトウェアが、インストールキットのSAS Order Informationシートのリストと一致するかどうかを確認してください。

[次へ] をクリックします。

- ☞ [インストールする言語コンポーネントの選択] が表示されたら、記述されている内容を確認してください。

[すべて選択] をクリックして、使用可能な言語をすべて選択するか、[すべてクリア] を選択して、選択を取り消します。[次へ] をクリックします。

- ☞ [デフォルトで使用する言語の設定] が表示されたら、記述されている内容を確認してください。

このウィンドウにはインストールする言語コンポーネントの選択ウィンドウで選択したすべての言語が表示されます。

デフォルト言語に指定したい言語のチェックボックスをクリックします。

[次へ] をクリックします。

- ☞ [SAS共有ファイル] が表示されたら、記述されている内容を確認してください。

セットアップでインストールしたファイルの中には、複数のSASプロダクト間で共有されるものもあります。大抵の場合は、ダイアログに表示された場所を使用できます。共有ファイルが別のフォルダにある場合は、[参照] をクリックして、共有ファイルの場所を指定します。

[次へ] をクリックします。

- ☞ [インストール先フォルダの選択] が表示されたら、記述されている内容を確認してください。

[次へ] をクリックして、ダイアログに表示されている保存先フォルダにSASをインストールします。

または、[参照] をクリックして別のフォルダを選択します。

- ☞ [データファイルフォルダの指定] が表示されたら、記述されている内容を確認してください。

デフォルトでは、Windowsのユーザープロファイルディレクトリ内の、このダイアログに示された場所に作成されます。Windowsディレクトリに対してこのデフォルトを選択すると、ユーザーファイルがそれぞれのプロファイルフォルダに自動的に作成され、複数のユーザーが同じコンピュータ上でSASを使用できます。

[次へ] をクリックして、デフォルトのディレクトリを指定するか、[参照] をクリックして別のディレクトリを指定します。

- ☞ [一時ファイルフォルダの指定] が表示されたら、記述されている内容を確認してください。

SASではデータ処理が実行されると、一時ファイルが作成されます。

[次へ] をクリックして、一時ファイルの保存先としてデフォルトのディレクトリを指定するか、[参照] をクリックして別のディレクトリを指定します。

☞ [コンポーネントの選択] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

このウィンドウは、このインストールで選択したコンポーネントを表示します。このリストの内容を変更するには、インストールするコンポーネントを選択し、インストールしないコンポーネントの選択を取り消します。

[ライセンスされているソフトウェアを選択] をクリックすると、ライセンスされているコンポーネントのみを簡単に選択することができます。

更新中は、更新を必要とするコンポーネントのみが選択されます。また、これらの選択を取り消すことはできません。

[次へ] をクリックします。

☞ [ファイルタイプの選択] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

このウィンドウは、使用しているマシン上で、すでにアプリケーションに関連付けられているファイルタイプ、およびそれらのファイルタイプを使用するSASストアプログラムを表示します。このリストの内容を変更するには、各チェックボックスで、SASソフトウェアに関連付けるファイルタイプを選択し、関連付けたくないファイルタイプの選択を外します。

[すべて選択] をクリックすると、すべてのファイルタイプを選択したデフォルトの状態になります。[すべてクリア] をクリックするとすべての選択を取り消します。

[次へ] をクリックします。

☞ [ファイルのコピーの開始] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

プログラムファイルのコピーするための準備は完了しました。

現在の設定で問題がない場合、[次へ] をクリックします。

設定の確認または変更が必要な場合は、[戻る] をクリックして、[コンポーネントの選択] に戻ります。

☞ [更新確認] が表示されたら、記述されている内容を確認してください。


別のアプリケーションですでに.LOGファイルなどのファイル拡張子が使用されていると、このウィンドウが表示されます。セットアップは、この拡張子を使用しているファイルをSASに関連付けることができますが、その場合、他のアプリケーションに影響を与える可能性があります。現在の設定を変更して、これらのファイルをSASと関連付けることもできますし、以前の選択をそのままにしておくこともできます。

このウィンドウから選択できる項目は次のとおりです。

- ファイル拡張子の関連付けを変更し、SASの機能を有効にしたい場合は、[はい] をクリックして、SAS 9.1.3をこの拡張子を使用しているファイルのデフォルトアプリケーションにします。
- [いいえ] をクリックして、そのファイル拡張子を以前の関連付けのままにします。


また、使用中のその他すべてのファイル拡張子を同じように変更したい場合は、[はい] または [いいえ] をクリックする前に、[すべてのファイルタイプに対してこのアクションを適用] チェックボックスを選択します。

最後のダイアログには2通りあり、下記のいずれかが表示されます

 [SASセットアップは完了しました] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

この時点で、SASソフトウェアのインストールは完了しています。直ちにSAS 9.1.3を起動したい場合は、[SASを実行する] チェックボックスを選択します。直ちに「設定ガイド」を参照したい場合は、[インストール後の設定ガイド表示] チェックボックスを選択します。

[完了] をクリックします。

 [SASセットアップは完了しました] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

この時点で、必要なファイルはすべてコンピュータにコピーされています。ただし、使用中のため更新されていないファイルがある場合もあります。このようなファイルは、コンピュータを再起動したときに自動的に更新されます。

以下の2つのラジオボタンの1つをクリックします。

- [はい、今すぐコンピュータを再起動します]
- [いいえ、あとでコンピュータを再起動します]


再起動を選択した場合は、開いているすべてのアプリケーションを閉じ、ディスクドライブに入っているフロッピーディスクがあれば取り出します。

コンピュータの再起動後、ウィルススキャンプログラムがすべて無効になっているかどうか確認します。

[完了] をクリックします。

SAS セットアップで複数回使用されるダイアログ

SASセットアップの実行中、必要に応じて次の3つのダイアログが表示されます

 [セットアップステータス] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

このダイアログは、セットアップが要求された操作を実行している間に表示されます。システム管理者側で必要となる操作はありません。

必要であれば、[キャンセル] をクリックしてセットアップを終了できます。

☞ [セットアップの中止] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

セットアップは後で完了することができますが、セットアップをすぐに終了すると、プログラムはインストールされません。

[いいえ] をクリックするとセットアップに戻ります。または、[はい] をクリックして終了します。

☞ [ディレクトリの選択] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

このウィンドウには、選択可能なフォルダが表示されます。インストール対象のフォルダを見つけるまで、階層化されたフォルダを検索します。

[OK] をクリックしてフォルダを選択します。

または、[キャンセル] をクリックして前のウィンドウに戻ります。

Quiet モードによる SAS セットアップの使用

Quietモードでインストールを事前に行い、後でSAS 9.1.3 Foundationを別のコンピュータにインストールするときを使用することができます。QuietモードによるSASセットアップを使用すると、複数のコンピュータにソフトウェアをインストールする場合かなりの時間を節約できます。下記の手順に従いQuiet記録ファイルを作成し、インストールをしてください。

注意事項

Quietモードによるセットアップ中に最も頻繁に起こる問題は、ディスクの容量不足です。セットアップを始める前に、SAS 9.1.3 Foundationをインストールするコンピュータに空きディスク容量が十分あることを確認してください。

Quietモードによるセットアップの性質上、間違いを直ちに訂正できません。エラーの修正には、Quietデータファイルの更新や再インストールが必要なため、時間がかかります。

Quietモードによるセットアップは、再起動すると再開しません。したがって、Quietモードによるセットアップを実行する前に、コンピュータがシステム必要条件を満たしていることを確認してください。Quietモードによるセットアップを実行する前に、必ずSystem Requirement ウィザードを実行することをお勧めします。

Quiet記録ファイルは、RecordモードでSASセットアップを実行することによって作成できます。これにより、Quietモードにて実行するセットアップに使用するデータファイルが作成されます。

Quietモードをバッチスクリプトから使用する例については、次のファイルを参照してください。

- sas¥core¥sasinst¥examples¥goquiet.cmd.txt
- sas¥core¥sasinst¥examples¥sasquiet.cmd.txt
- sas¥core¥sasinst¥examples¥srwquiet.cmd.txt

Quietモードを使用して以前のインストールを更新する場合、初めにQuietモードによるインストールを記録するのに使用したサーバーイメージを更新しなければなりません。さらに、新しいquiet.iniファイルに記録する必要があります。

Quiet 記録ファイルの記録

Recordモードは、指定したディレクトリにデータファイルを作成し、対話的にセットアップしている時に提示されるダイアログへの応答を記録します。

次のコマンドを発行して、Quiet記録ファイルの記録を開始します。

```
<drive letter and full path to SAS setup.exe file>setup.exe record
```

例：

```
o:¥SAS Server¥9.1¥sas¥setup.exe record
```


注意：すでにSAS 9.1またはSAS 9.1.2がインストールされているマシン上でQuietファイルを記録すると、SASプロダクトの選択においてインストールするプロダクトが正確に反映されません。また、このSASプロダクトの選択を取り消すことはできません。このように作成したquiet.iniファイルは、更新に必要な最小限のSASプロダクトを含むこととなります。

Quiet 記録ファイルの編集

このセクションでは、Quiet記録ファイル内で編集できる項目の値について説明します。多くの項目の値は、ブランクの場合に使用されるデフォルト値があります。各デフォルト値を以下に説明します。

警告行（DO NOT EDIT BELOW THIS LINE）の下の設定は編集しないでください。Recordモード実行中に、選択したコンポーネントを変更したい場合は、[戻る] ボタンをクリックして [コンポーネントの選択] ダイアログに戻り、選択し直してください。さもなければ、Quiet記録ファイルを新規に登録して設定を変更しなければなりません。他の方法でこの情報を変更すると、Quiet記録ファイルが無効になることがあります。

Quiet Options (暗黙的なオプション)

ReplaceRegistryKeys=Yes/No

この値は、インストールしようとしているSASの現行バージョンにファイル拡張子を関連付けるかどうかを示すために使用します。コンピュータに以前のバージョンのSASがインストールされている場合にだけ適用されます。

IgnoreFileCopyErrors=Yes/No

この値は、ファイルのコピー中に発生したエラーを致命的なエラーでなく警告として扱うかどうかを指すために使用します。ファイルコピーのエラーを無視すると、ファイルコピーのエラーの発生時にもセットアップを継続することができますが、作成されるイメージは完全ではありません。特異な構成のコンピュータ上でファイルコピーのエラーが予想される場合にのみ、このオプションをお勧めします。ファイルコピーのエラーに関する詳細は、『Usage Note 3998』を参照してください。

Retrieve SAS Installation Data (SASインストールデータの取得)

Method=Existing/File

この値は、SASインストールデータファイルを取得する場所を示します。サーバーにSASイメージを作成する時にこのデータを取得するため、通常の設定は、「Existing」です。

SAS Installation Data (SASインストールデータ)

File=

この値は、SASインストールデータのファイルが保存される場所を参照します。上記のSASインストールデータの取得のMethodを「File」に設定した場合のみ設定します。

Language Values (言語値)

次の言語コードを使用し、インストールする言語の選択とデフォルトの言語の設定をします。

1d= DBCSサポート付き英語	it=イタリア語
cs=チェコ語	ja=日本語
de=ドイツ語	ko=韓国語
en=英語	pl=ポーランド語
es=スペイン語 (標準スペイン語)	ru=ロシア語
fr=フランス語	sv=スウェーデン語
hu=ハンガリー語	zh=中国語 (簡体字)

Language Selections (言語の選択)

Language1=??

Language2=??

...

選択された言語は、*LanguageX=??*の形式を使用して別々の行に記載しなければなりません。Xは、1から始まる連番で、??は選択する言語の上記の2桁による言語コードです。

Default Language (デフォルトで使用する言語)

Default=??

ここで指定する言語コードは、デフォルトとして使用する言語を指定するために使用されます。

Add SAS Software (SASソフトウェアのインストール方法)

Method=Add/New

この値で、SAS 9.1.3 Foundationがすでにコンピュータに存在するときの対処方法を指定します。Addは既存のインストールに新しいコンポーネントを追加するために使用し、Newは、そのシステムへ新規のSASのインストールを開始するために使用します。SAS 9.1.3 Foundationのインストールは、一度に1つしか実行できないため、最も一般的な設定はAddです。

Destination Location (インストール先フォルダの選択)

Location=

これは、SASをインストールする場所です。この値を空白にすると、セットアップは、Program Filesの下にあるデフォルトの場所を使用します。この値を対象のコンピュータに存在しないドライブ文字に設定すると、セットアップが中断します。

Data Files Folder (データフォルダ)

Folder=

これは、パーソナルユーザーのデータファイルを保存する場所です。この値を空白にすると、セットアップは、ユーザーのLocal Settingsエリアにあるデフォルトの場所を使用します。

Temporary Files Folder (一時ファイルフォルダ)

Folder=

これは、一時ファイルを保存する場所です。この値を空白にすると、セットアップは、ユーザーの一時保存先にあるデフォルトの場所を使用します。

Quiet 記録ファイルの使用

以前に作成したQuiet記録ファイルを使用してQuietモードによるセットアップを実行するには、SASディレクトリから次のコマンドを実行します。

```
<drive letter and full path to SAS setup.exe file>setup.exe -s
quietfile=<drive letter and full path to the quiet file>
-f2<drive letter and full path to the log file>
```

クライアントユーザーの例：

```
o:¥SAS Server¥9.1¥sas¥setup.exe -s quietfile=
o:¥SAS Server¥9.1¥sas¥quiet.ini -f2c:¥temp¥quiet.log
```

パーソナルユーザーの例：

```
o:¥SAS Server¥9.1¥Disk1¥sas¥setup.exe -s quietfile=
o:¥SAS Server¥9.1¥Disk1¥sas¥quiet.ini -f2c:¥temp¥quiet.log
```

Quiet記録ファイルを使用する場合、ログファイルを作成することが重要です。ログファイルがないと、Quietモードのインストールに失敗することがあります。次のように-f2オプションを使用してログファイルを作成します。

```
setup -s -f2<path and filename of the log file>
```

f2オプションで、ログファイルを作成する場所を指定します。このオプションを使用して、書き込み許可のある有効な場所を指定します。有効な場所と書き込み許可がないと、Quietモードは、失敗の表示をせずに終了することがあります。

トラブルシューティング

-f2と次の引数の間に、スペースがないか確認します。

ログは、ResponseResultコードを表示しますので、失敗したインストールのトラブルシューティングの助けになります。一般的なResponseResultコードは、次のとおりです。

0	成功
-1	一般的エラー
-2	無効なモード
-4	メモリ不足
-5	ファイルがない
-7	ログファイルに書き込めない
-51	指定したフォルダを作成できない
-52	指定したファイルまたはフォルダにアクセスできない

詳細は、39ページの「System Requirementウィザードの使用」を参照してください。

Microsoft System Management Server 2.0 を使用した SAS のインストール

SAS 9.1.3では、Quietモード機能を使用した無人インストールの手段を提供しています。Microsoft System Management Server 2.0によって、企業全体にSASを配置する簡単に迅速な方法が提供され、この機能が拡張されました。システム管理者は、このツールを使用してSAS 9.1.3のパッケージを構築し、それをユーザーに配置することができます。

ここでは、SMS 2.0上にSAS 9.1.3を配置するために必要な手順を説明します。以下の説明は、次の3つを前提としています。

- 1 SMS 2.0上にSAS 9.1.3を配置する担当者は、SMS管理者であるか、またはSMS 2.0に精通している。そうでない場合は、SMS 2.0管理ドキュメントを参照してください。
- 2 SMS 2.0上にSAS 9.1.3をインプリメントする担当者は、LAN上で管理者権限を持っている（つまり、アカウントを作成し、ネットワーク上でシステムを管理し、パスワードを変更することができる）。
- 3 すでに設定され正常に作動しているSMS環境がある。

一般的に、SMS管理者は、他のソフトウェアパッケージを配布するのと同様に、クライアントにSASを配布します。システム管理者はサイト階層を設定し、ソフトウェアをロードする対象としてクライアントを収集し、そのクライアントに提供するプログラムパッケージを作成します。

以下の記述内容は、上記の基本以外に、SASの配置に影響をもたらすいくつかの事例です。

SASパッケージの配置には、5つの手順があります。

- 1 SAS Quiet記録ファイルの作成
- 2 SMSでのソフトウェア配置設定
- 3 SMSでのSystem Requirementウィザードインストールパッケージの作成
- 4 SMSでのSASインストールパッケージの作成
- 5 SMSによるパッケージの配置

手順 1 : SAS Quiet 記録ファイルの作成

SAS Quiet記録ファイルの作成方法に関する情報は、50ページの「QuietモードによるSASセットアップの使用」を参照してください。Quiet記録ファイルを作成後、SMS上に配置するためのSAS 9.1.3パッケージの作成に進むことができます。

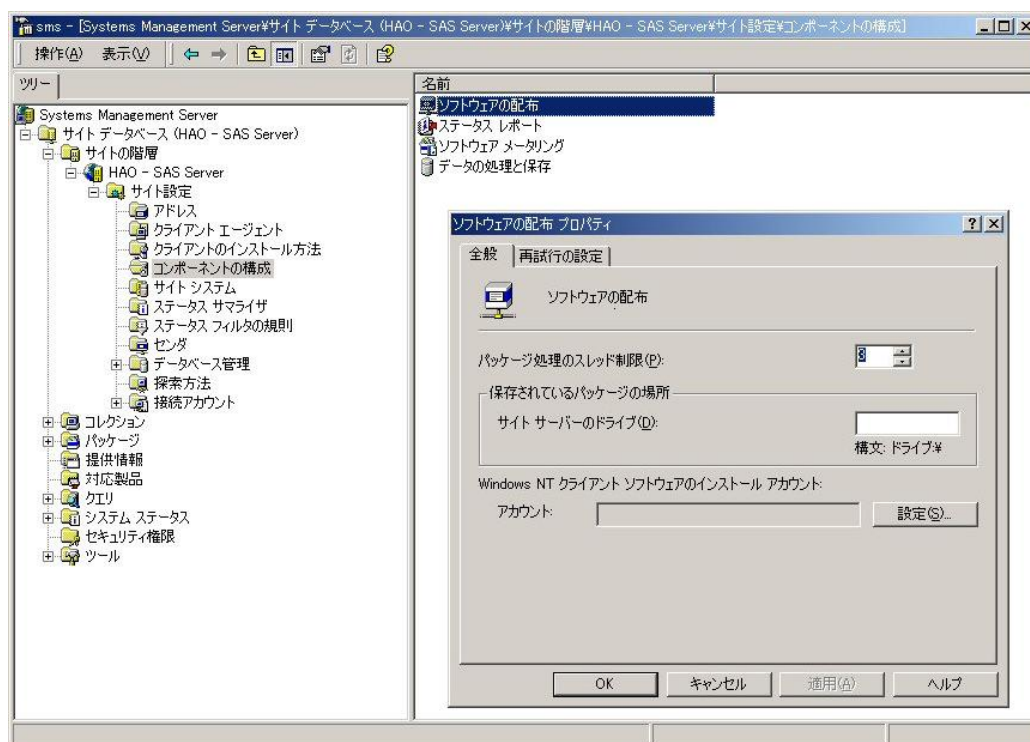
手順 2 : ソフトウェア配置設定

SAS 9.1.3のSMSパッケージを構築するためには、ソフトウェア配置のプロパティを設定する必要があります。SMS管理コンソールによって、この設定を行うことができます。

ログオンしているユーザーがいないときにクライアントにジョブを配置しようとする場合は、Windows NTのクライアントソフトウェアのインストールアカウントを設定しなければなりません。

せん。SMS管理コンソールでは、[サイト設定] – [コンポーネントの構成] の下にこの設定があります。

[ソフトウェアの配置] のオブジェクトにて、クライアントコンピュータに自動ログインするアカウントのドメインとログインを指定します。このアカウントは、ソフトウェアパッケージのProgramプロパティの下に設定してあるものと一致させます。



注意： このアカウントは、System RequirementウィザードとSASパッケージの作成にも使用されます。このアカウントのパスワードはコマンド行に表示されますので、安全管理には十分注意してください。パッケージが配置された後、パスワードを変更することをお勧めします。または、プログラムの配置後に無効となる一時的なシステム管理者のアカウントを作成する方法もあります。

[ソフトウェアの配置 プロパティ] を設定することにより、System RequirementウィザードとSASパッケージを作成することができます。

手順3：SAS と SRW のインストールパッケージの作成

System Requirementウィザード (SRW) は、プロダクトをインストールするためにシステムを再起動し、セットアップIDによりログインし直さなければならない点が特殊です。このため、SRWセットアップを実行するときに、ユーザーID、ドメイン、パスワードを、セットアッププログラムに渡します。また、SMSの場合はさらに複雑です。

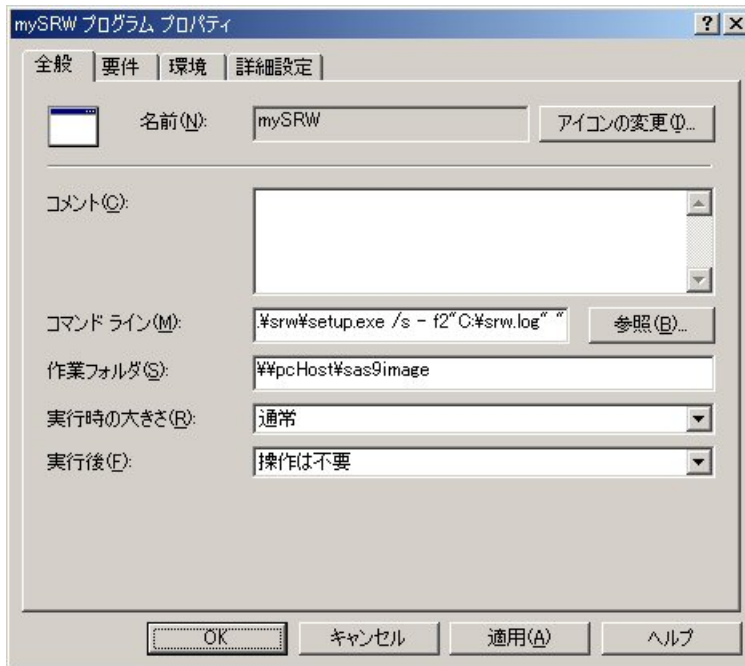
その理由として、誰もコンピュータにログインしていないときに、SMSも別のログインIDを与えるからです。つまり、システムを再起動する場合に使用されるログインが2つあるということです。コマンドラインに設定したAutoIDは、[NTクライアントソフトウェアのインストールアカウント] と同じでなければなりません。この値が異なると、それぞれがお互いのログイン

を無効にしあつて、それを制御するためにシステムが再起動され永久ループに陥ります。この場合は、レジストリの編集でしか修正できません。

手順1で [ソフトウェアの配置 プロパティ] を設定したので、SRWに備えたSMSパッケージを作成することができます。SMS管理コンソールを開きます。SMSの [パッケージ] セクションで、 [全般] タブを次の設定にしてSRWインストールパッケージを作成します。

フィールド	設定	説明
名前	<パッケージ名>	パッケージ名を指定します (必須)。
コメント		パッケージの説明などを指定します (任意)。
コマンドライン	.%srw%setup.exe -s - f2c:%temp%srw.txt "QuietLog:c:%temp%srw.tx t" "AutoID:adminacct" "AutoPwd:adminpass" "AutoDomain:domainname"	<ol style="list-style-type: none"> 1) "." は、現在のパスを示します。コマンドライン全体で127文字以下にするために使用します (下記の注意参照)。 2) "%srw%setup.exe"の部分は、SRWのsetup.exeへのパスを指定します。 3) "-s"オプションで、サイレントモードのインストールを設定します。 4) "-f2"オプションで、SRWのログファイルへのパスを指定します。"c:%temp%srw.txt"をログファイルの保存先へのパスに置き換えます (この場所への書き込み許可が必要です。許可がないとジョブは失敗します)。 5) "QuietLog:"オプションで、SRWログファイルへのパスを指定します。項目#4と同様。 6) "AutoID:"オプションで、自動ログインアカウントを指定します。 [ソフトウェアの配置 プロパティ] にて指定したアカウントと同じアカウントを指定してください。記載の値は、あくまで例です。 7) "AutoPwd:"オプションで、自動ログインアカウントのパスワードを指定します。記載の値は、あくまで例です。 8) "AutoDomain:"オプションで、自動ログインアカウントのドメインを指定します。記載の値は、あくまで例です。
作業フォルダ	<パス名>	SASイメージ (ルートレベル) が格納されているディレクトリを指定します。このディレクトリには、クライアント上の絶対パス (UNC : 汎用名前付け規則) 、またはパッケージのある配置ポイントフォルダへの相対パスのどちらかを指定します。ユーザー固有。
実行時の大きさ	<実行モード>	プログラムの実行モードを指定します。ユーザー固有。デフォルトは「通常」 (任意)。
実行後	<アクション>	このプログラム (パッケージ配置) が完了した時に実行する操作を指定します。ユーザー固有。デフォルトは「操作は不要」 (任意)。

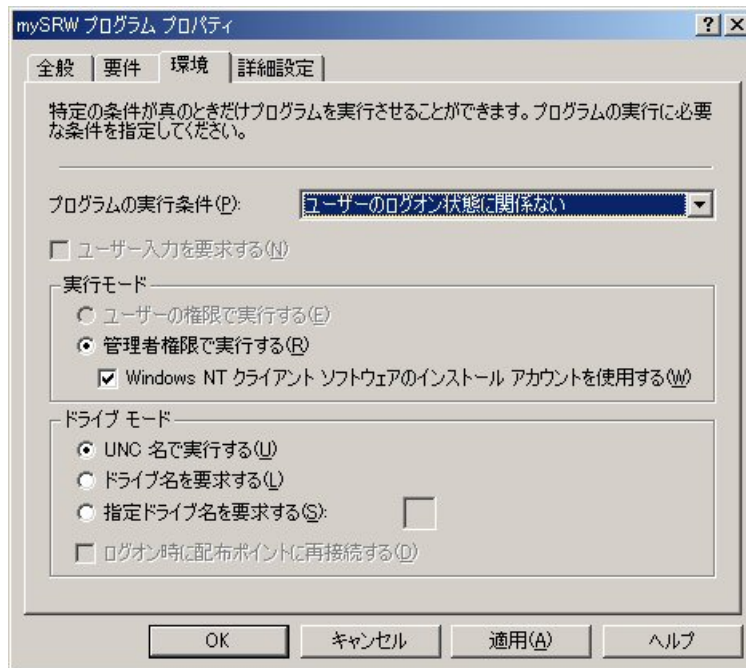
注意 : コマンドラインには127文字以内の制約があるため、UNCパスの深さを最小限にすることが重要です。あるいは、バッチスクリプトに長いコマンドラインによる構文を記載し、コマンドラインからそのバッチスクリプトを実行することもできます。



[全般] タブの各項目を設定したら、[環境] タブをクリックします。これら以外の [要件] と [詳細設定] タブの各設定値は、デフォルトのままでもかまいません。

フィールド	設定	説明
プログラムの実行条件	<プログラムの実行設定>	プログラムを実行するために、ユーザーがクライアントにログオンする必要があるかどうかを指定します。ユーザー固有。デフォルトは、「ユーザーのログオン状態に関係ない」。
実行モード	[管理者権限で実行する] と [Windows NTクライアントソフトウェアのインストールアカウントを使用する]	プログラムの実行アカウント許可を指定します。左側の2つの設定を選択します。
ドライブモード	[UNC名で実行する]	汎用名前付け規則 (UNC) を使用して、プログラムを実行できるように指定します。

以上の設定を使用して、ユーザーがログオンしているかどうかに関わらず、SMSのジョブが実行できます。実行モードは、管理者権限で実行するように設定されています。ネットワーク上の場所からソフトウェアを取得するため、[Windows NTのクライアント ソフトウェアのインストール アカウントを使用する] が選択されています。



注意： コマンドラインに設定したAutoIDは、[NTクライアントソフトウェアのインストールアカウント]と同じでなければなりません。この値が異なると、それぞれがお互いのログインを無効にしあって、それを制御するためにシステムが再起動され永久ループに陥ります。この場合は、レジストリの編集でしか修正できません。

[全般] と [環境] タブを設定することにより、SRWインストールパッケージが作成されます。次のステップは、SASインストールパッケージの作成です。

手順 4 : SAS インストールパッケージの作成

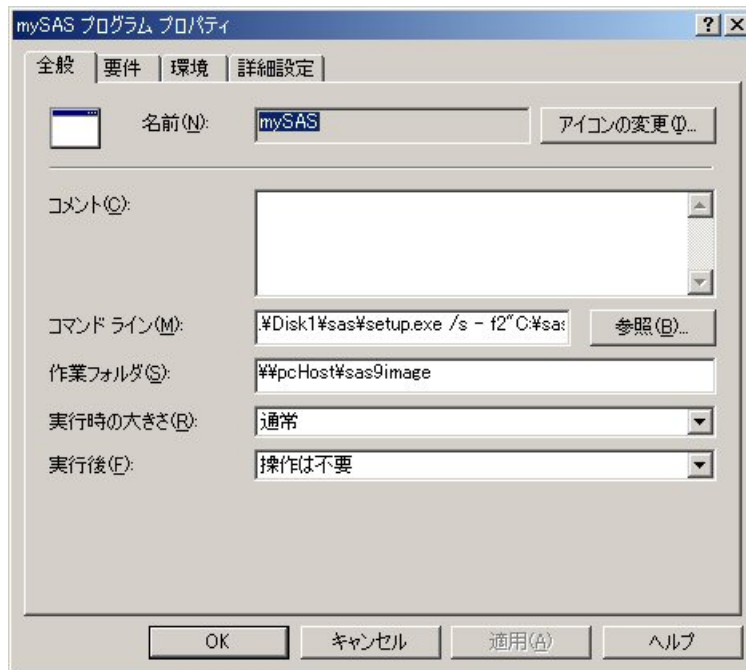
SASインストールパッケージの作成処理は、SRWインストールパッケージの作成と似ています。違いは、コマンドラインの設定です。

SRWインストールパッケージの作成と同様に、SMS管理コンソールから開始します。[パッケージ] のセクションにある [全般] タブで次の設定をして、SASインストールパッケージを作成します。

フィールド	設定	説明
名前	<パッケージ名>	パッケージ名を指定します（必須）。
コメント		パッケージの説明などを指定します（任意）。
コマンドライン	.¥disk1¥sas¥setup.exe -s -f2 "c:¥temp¥sas.txt" quietfile="¥¥srv1¥v9image¥disk1¥sas¥quiet1.ini"	<ol style="list-style-type: none"> 1) "." は、現在のパスを示します。コマンドライン全体で127文字以下にするために使用します（下記の注意参照）。 2) "¥disk1¥sas¥setup.exe"の部分は、SASのsetup.exeへのパスを指定します。 3) "-s"オプションで、サイレントモードのインストールを設定します。 4) "-f2"オプションで、SASログファイルへのパスを指定します。 5) "c:¥temp¥sas.txt"で、SASログファイルへのパスを指定します。ログファイルの保存先へのパスに置き換えます（この場所への書き込み許可が必要です。許可がないとジョブは失敗します）。 6) "quietfile="で、手順1で作成したQuiet記録ファイルをフルパスで指定します。 7) ¥¥srv1¥v9image¥disk1¥sas¥quiet1.ini"で、Quiet記録ファイルのパスを指定します。これを自分のQuiet記録ファイルへのパスに置き換えます。絶対パスを使用してください。
作業フォルダ	<パス名>	SASイメージ（ルートレベル）が格納されているディレクトリを指定します。このディレクトリには、クライアント上の絶対パス（UNC：汎用名前付け規則）、またはパッケージのある配置ポイントフォルダへの相対パスのどちらかを指定します。ユーザー固有。
実行時の大きさ	<実行モード>	プログラムの実行モードを指定します。ユーザー固有。デフォルトは、「通常」（任意）。
実行後	<アクション>	このプログラム（パッケージ配置）が完了した時に実行する操作を指定します。ユーザー固有。デフォルトは、「操作は不要」（任意）。

注意： コマンドラインには127文字以内の制約があるため、UNCパスの深さを最小限にすることが重要です。また、Quietファイル（quietfile=）は、パスにプレフィックスの「.」が使用できないので、絶対パスを使用しなければなりません。Quietファイル変数（quietfile=）は、現在のパス値とは独立しています。

[全般] タブの各項目を設定したら、[環境] タブをクリックします。このダイアログは、57ページの [環境] タブと同様に設定できます。また前回の設定と同じように、他の [要件] と [詳細設定] タブの各設定は、デフォルトのままにかまいません。[環境] タブは、上記の手順3と同様に設定されます。



以上の設定を使用して、ユーザーがログオンしているかどうかに関わらず、SMSのジョブが実行できます。実行モードは、管理者権限で実行するように設定されています。ネットワーク上の場所からソフトウェアを取得するため、[Windows NTのクライアント ソフトウェアのインストール アカウントを使用する] が選択されています。

注意： コマンドラインに設定したAutoIDは、[NTクライアントソフトウェアのインストール アカウント] と同じでなければなりません。この値が異なると、それぞれがお互いのログインを無効にしあって、それを制御するためにシステムが再起動され永久ループに陥ります。この場合は、レジストリの編集でしか修正できません。

[全般] と [環境] タブを設定することにより、SASインストールパッケージが作成されます。次のステップは、SRWとSASのインストールパッケージの配置です。

手順 5：配置

SMSでのSASインストールジョブは、再起動を必要としないので、SRWジョブよりもはるかに簡単です。一般的なSASインストール手順では、ネットワーク上の場所にSASのパーソナルまたはクライアント用のインストールイメージがあり、この場所からユーザーにセットアップを実行してもらいます。このタイプのジョブが成功するためのアクセス要件は、SMSが使用するインストールIDが、その場所への読み込みアクセス権を持っていることだけです。

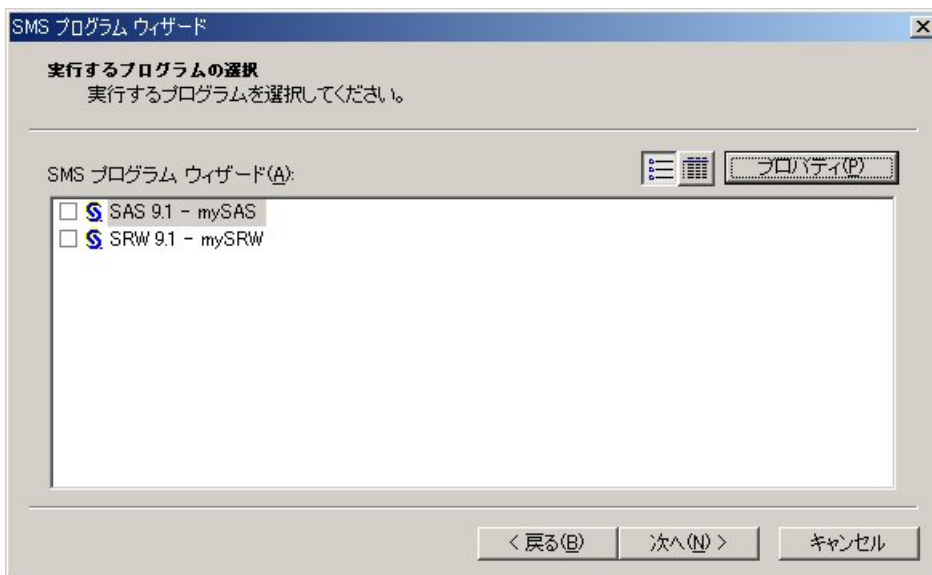
SMSエージェントをロードしたクライアントでは、2つのAdvertised ProgramアイコンとSystem Managementのアイコンがコントロールパネルに表示されます。最初のAdvertised Programsアイコンは、実際にはSMSプログラムウィザードであり、クライアントがジョブを受け取ったときに自動的に起動されます。2番目のAdvertised Programアイコンは、SMSプログラムモニターであり、クライアントに配置されるジョブの履歴を作成するプログラムです。SMSプログラムウィザードについて、以下に詳しく説明します。

ジョブがクライアントに送られ、そのクライアントがネットワークにログオンすると、アイコントレイに特殊なアイコンが現れ、次のようなメッセージダイアログが画面に表示されます。

新しいSMSプログラムが利用可能です。SMSプログラムウィザードを起動しますか？

トレイにある [新しいSMSプログラムウィザード] アイコンを右クリックすると、SMSプログラムウィザードを実行するか、またはSMSプログラムモニタを開くかの選択肢が表示されます。新しいプログラム通知で [いいえ] をクリックすると、システムトレイにあるアイコンにアクセスして、後でパッケージを実行することができます。

[はい] をクリックして、SMSプログラムウィザードを起動します。ウィザードの最初のダイアログに、そのクライアントの待ち行列にあるすべてのパッケージが表示されます。このリストには、新しいジョブのほかに、有効期限切れのフラグが付いていない古いジョブも含まれます。



実行したい古いパッケージと新しいパッケージを任意に組み合わせてクリックし、[次へ] をクリックして続行します。

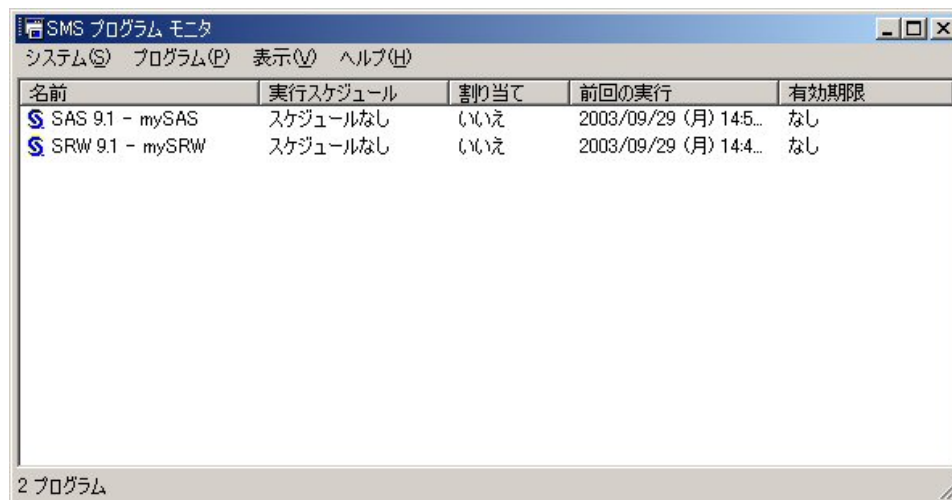
ウィザードの最後のダイアログでは、ジョブを実行する時間を入力するように求められます。すぐにジョブを実行するか、後で実行するかを選択できます。選択した後、[次へ] をクリックして続行します。

最後のダイアログには、ジョブの完了ステータスが表示されます。



このダイアログは、パッケージアプリケーションの実行からのフィードバック情報を表示しませんので注意してください。SMSジョブが開かれ実行されたことだけを通知します。また、ユーザー入力が必要かどうかや、推定実行時間などのプログラムプロパティに関する情報も表示します。[完了] をクリックしてウィザードを終了します。

パッケージ実行後、[コントロールパネル] を選択して、SMSプログラムモニタを開くことができます。



このウィンドウでは、クライアントに配置されたパッケージの一覧、最終実行日/時間、パッケージ有効期間/時間を表す情報を表示します。

このSASパッケージを選択して、コンピュータにログオンせずにインストールすることができますが、システムが手動でログオンされるまでセットアップは開始しません。いったんログインしたら、[コントロールパネル] - [SMSプログラムマネージャ] を開いて実行するジョブを選択します。その時点から、セットアップはサイレントモードになります。セットアップが実行していることを示す唯一のものは、CPUとドライブの活動とSMSプログラムモニタ内で見ることができるSMSジョブ上の砂時計アイコンです（リフレッシュサイクルが長く設定されてい

る可能性があるので、SMSプログラムモニタの内部の画面を一度リフレッシュする必要があります)。

注意： ここで使用した例は、UNCパスからインストールを実行したモデルに従っています。すべてのクライアントに同じネットワークドライブをマッピングし、代わりにドライブパスを使用してインストールすることもできます。ただし、通常この方法は作業量が多すぎます。UNCパスは使用方法が簡単で、より柔軟性があります。

あるいは、バッチスクリプトに長いコマンドラインによる構文を記載し、コマンドラインからそのバッチスクリプトを実行することもできます。

SAS ソフトウェアの更新

SASソフトウェアは、契約期間に基づいてライセンスされます。ライセンスされたソフトウェアを実行するためには、ライセンスに含まれるソフトウェアに関する情報 (SETINIT) とその他のインストールプロセスのカスタマイズパラメータが収められたSASインストールデータを取得しなければなりません。ライセンスの契約期間が終了したら、あるいは契約しているSASプロダクトを変更する場合、SASインストールデータファイルを更新する必要があります。

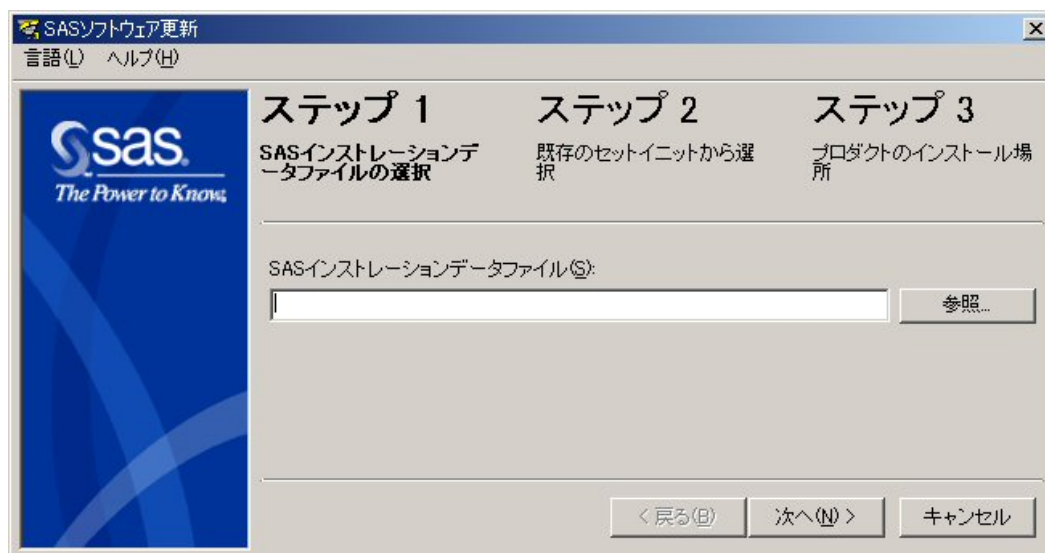
SAS インストールデータ

SASソフトウェアをオーダーするかSASソフトウェアのライセンスを更新すると、インストール担当者はSAS社からテキストファイルが添付された電子メールを受け取ります。この添付ファイルには、SASインストールデータが収められています。SAS Software Orderメールの指示に従って、添付ファイルをディスクに保存してください。

この電子メールと添付ファイルは、ハードディスクまたは定期的にバックアップされるその他の場所に保存してください。SASインストールデータがないと、SAS 9.1.3をインストールできません。詳細は、71ページの「SAS管理者ウィザードによるSASインストールデータの取得」を参照してください。

SASインストールデータファイルは、通常sas91_XXXXXX.txtとして [マイ ドキュメント] に保存されます。SASインストールデータをディスクに保存した後、インストール中に保存したディスクの場所を指定してSASインストールデータを取得します。別の方法として、SASソフトウェアがすでにインストールされている場合には、SASソフトウェア更新ツールを使用してSASインストールデータを取得します。

SAS ソフトウェア更新ツール



注意： SASソフトウェア更新ツールは、パーソナルイメージの更新のみに使用できます。クライアントイメージについては、システム管理者がメンテナンスモードから更新を行ってSASソフトウェアを更新します。詳細は、74ページの「メンテナンスモードによるサーバーイメージ上のSASインストールデータの更新」を参照してください。

ツールの実行

SASソフトウェア更新ツールは、SASインストールデータファイルが含むSASソフトウェアのライセンス (SETINIT) 情報とインストール処理に使用するカスタマイズされたパラメータを確認します。 [スタート] – [プログラム (Windows XPでは、すべてのプログラム)] – [SAS] – [SAS 9.1 Utilities] – [SASソフトウェア更新] を選択します。

スタートメニューからSASソフトウェア更新ツールが見つからない場合、次の2つの方法があります。

1. エクスプローラを開きます ([スタート] – [名前を指定して実行] を選択し「explorer」と入力する)。C:\Program Files\SAS\SAS System\9.1\core\sasinst\sasrenewディレクトリに移動します。renew.exeをダブルクリックして、SASソフトウェア更新ツールを起動します。
2. 「Software Disk 1」というラベルのついたCDをドライブに挿入し、次のディレクトリに移動します。 <CD Drive>:\sas\core\sasinst\sasrenewsasrenew.exeをダブルクリックして、SASソフトウェア更新ツールを起動します。

1の場合、デフォルトの!sasrootは、C:\Program Files\SAS\SAS 9.1です。

SAS ソフトウェア更新のダイアログ

☞ [SASインストールデータファイル] フィールドにパス名を入力します。

または、 [参照] をクリックしてファイルを選択し [OK] をクリックします。

[次へ] をクリックして、次のウィンドウに進みます。

選択したSID (SASインストールデータ) ファイルが正しい情報を含んでいた場合、次に [SASインストールデータの確認] ダイアログが表示されます。

☞ 選択したSIDファイルに含まれているライセンス情報がフィールドに表示されます。この内容を確認してください。

この内容が正しいければ、 [OK] をクリックしてステップ2に移動します。

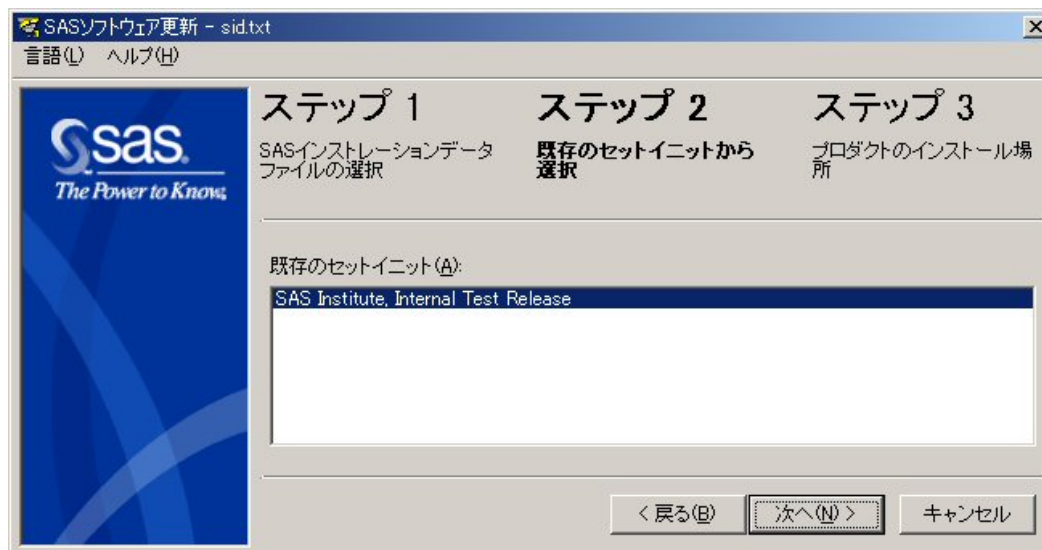
または、 [キャンセル] をクリックしステップ1に戻り、他のSASインストールデータを選択することができます。



「SASインストールデータの確認」ダイアログは、ステップ1で「次へ」をクリックすると表示されます。そしていつでもSIDファイルの場所を変更することができます。リストボックスの最初の行は、SASインストールデータでインストールできるプラットフォームを示します。また、このウィンドウでは契約期間の日付も確認されます。

注意： もし、リストボックスの最初の行に64-bit Windowsに関して記述されている場合、このSIDファイルは64ビット環境のプラットフォームのインストールにしか使用できません。

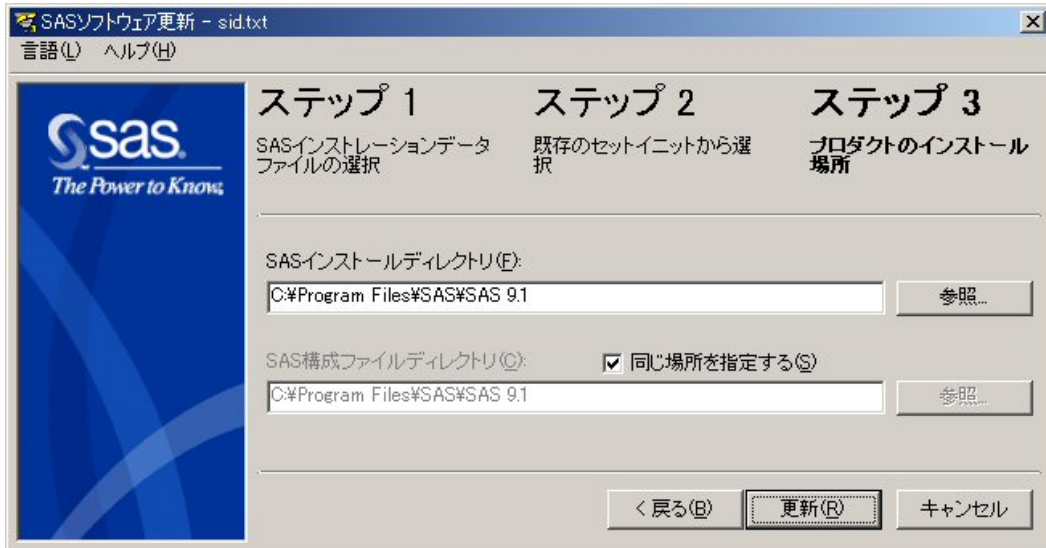
ステップ2のダイアログに、SASインストールデータファイルの中にある使用可能なすべてのSETINITが表示されます。通常、使用可能なものは1つだけです。



更新するシステムに対してSETINITが正しいかどうか確認します。複数のSETINITが表示されている場合、更新するシステムにおける正しいSETINITを選択してください。

「次へ」をクリックして、ステップ3に進みます。

ステップ3の2つのフィールドは、自動的に入力されます。最初のフィールドは、SAS 9.1.3 Foundationがインストールされた場所を示し、2番目のフィールドは、SAS構成ファイルの保存場所を示します。SAS 9.1.3 Foundationのデフォルトの場所は、C:\Program Files\SAS\SAS 9.1です。



SAS構成ファイルのデフォルトの保存場所は、SASインストールディレクトリと同じです。したがって、このウィンドウの2番目のフィールドは淡色表示されています。

SASインストールファイルとSAS構成ファイルが別々の場所に保存されている場合、[同じ場所を指定する] チェックボックスの選択を取り消し、[参照] をクリックして正しいフォルダを選択してください。[OK] をクリックして、処理を続けます。

注意： ステップ3のフィールドが空白の場合、[参照] をクリックして、正しいフォルダを指定します。[OK] をクリックして処理を続続するか、[キャンセル] をクリックしてステップ3のウィンドウに戻ります。空白のフィールドは、インストールの問題であることを示します。SASソフトウェア更新ツールが終了できない場合、SASインストールでどのようなエラーが発生したかを調べるには、Isasrootにある sassetup.log ファイルを確認してください。Isasrootのデフォルトの場所は、C:\Program Files\SAS\SAS 9.1です。

☞ 2つのフィールドに表示された場所を確認したら、[更新] をクリックします。

または、[参照] をクリックして別の場所を選択するか、[戻る] をクリックしてステップ2に戻るか、[キャンセル] をクリックして、SASソフトウェア更新を終了します。

次のウィンドウでは、SASソフトウェア更新ツールが、[セットユニットの適用に成功しました] ダイアログ、または発生した問題の示すエラーメッセージのどちらかを表示します。

SAS ソフトウェアの更新での Quiet モードの使用

SASソフトウェア更新ツールを使用して、ダイアログを表示しないでSASソフトウェアを更新できます。QuietモードでSASソフトウェアを更新するには、!sasroot¥core¥sasinst¥sasrenewディレクトリにあるツールを使用します。

コマンドプロンプトから、以下のコマンドを発行します：

```
"!sasroot¥core¥sasinst¥sasrenew¥sasrenew.exe" -s "datafile:<full path to your SAS Installation Data file>"
```

例：

```
"C:¥Program Files¥SAS¥SAS 9.1¥core¥sasinst¥sasrenew¥sasrenew.exe" -s "datafile:c:¥Program Files¥SAS¥SAS 9.1¥core¥sasinst¥sid.txt"
```

SIDファイルが正確に適用されたかどうかを確認するには、setinit.logファイルを参照してください。setinit.logファイルのデフォルトの場所は、C:¥Program Files¥SAS¥SAS 9.1です。

トラブルシューティング

SASソフトウェア更新ツールを使用しているときに発生する可能性のあるエラーは、次のとおりです。

❑ **Error : SAS構成ファイルは、正しくありません。**

SASソフトウェア更新ツールのステップ3を実行しているとき（特定のプロダクトにおいて）、次のエラーメッセージが表示されるかもしれません。

```
Renew SAS Software - sas91_xxxxxx.txt
The SAS config folder is not valid. Please verify the folder.
```

この問題を解決するには、正しい構成フォルダを指定する次の5つの手順を実行してください。

1. [OK] をクリックします。
2. [同じ場所を指定する] チェックボックスの選択を取り消します。
3. [参照] をクリックして、正しいSAS構成ファイルのフォルダを指定します。
4. [更新] をクリックします。
5. 初めに [同じ場所を指定する] チェックボックスを選択していない場合、選択してデフォルトの場所を使用してください。

詳細は、次を参照してください。

<http://support.sas.com/techsup/unotes/SN/010/010659.html>

□ SETINITファイルの適用時のエラー

SASソフトウェア更新ツールは、SETINITを適用する前にオペレーティングシステム名について確認しません。オペレーティングシステムが適切でない場合、以下のエラーメッセージが表示されます。

```
Renew SAS Software - SAS91_XXXXXX.txt
```

```
An error occurred applying the setinit file. Please refer to the
log file for additional information C:\Program Files\SAS\SAS
9.1\setinit.log.
```

```
Click OK. Your SAS Software has not been renewed yet. You may
renew at a later time.
```

```
Are you sure you want to exit? Yes or No. If you select No,
change the folder location, then click Renew to complete or Cancel
to exit.
```

なぜこの問題が発生したのかを確認するには、setinit.logファイルを調べます。オペレーティングシステムが正しくないことが問題であるなら、これと似たエラーメッセージが表示されます。

```
NOTE: The OSNAME= option specifies 'WIN ' but the current
operating system name is 'NET_SRV'.
```

```
ERROR: This non-match is not allowed and the setinit stream will
not be applied.
```

```
ERROR: Cannot change the site validation data.
```

```
NOTE: The SAS System stopped processing this step because of errors.
```

SASのバージョンに問題があるなら、これと似たエラーメッセージが表示されます。

```
Error: Will not attempt to apply setinit because the current
release of 9.1 and the release= option value of 9.0 do not match.
```

この問題を解決するには、使用しているオペレーティングシステムもしくはSASのリリースに対して、適用できる新しいSASインストールデータを入手してください。オペレーティングシステムによっては、システム名が異なるかもしれない点に注意してください。

setinit.logファイルは、!sasrootにあります。!sasrootのデフォルトの場所は、C:\Program Files\SAS\SAS 9.1です。

詳細は、次を参照してください。

<http://support.sas.com/techsup/unotes/SN/010/010790.html>

<http://support.sas.com/techsup/unotes/SN/010/010814.html>

□ 現在の日付xxxxxは、SAS Systemの最終契約期限xxxxxを過ぎています。

SAS更新ツールが終了し、[セットユニットの適用に成功しました]が表示された後、SAS 9.1.3を起動すると次のエラーメッセージが表示される場合があります。

```
ERROR: The current date of xxxxxx is past the
```

```
final expiration date for your SAS system, which is xxxxxx. Please
contact your SAS Software Representative to obtain your updated
SETINIT information.
```

```
ERROR: Initialization of SETINIT information from SASHELP failed.
```

```
FATAL: Unable to initialize the options subsystem.
```

```
ERROR: (SASXKINI): PHASE 3 KERNEL INITIALIZATION FAILED. UNABLE
TO INITIALIZE THE SAS KERNEL
```

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. SASインストール担当者から、最新のSASインストールデータファイル入手します。
2. SASソフトウェア更新ツールに戻り、このSIDファイルを指定します。

パーソナルインストールの場合、ユーザー自身でSASインストールデータ入手し、SASソフトウェア更新ツールを起動する必要があります。これを行うには、2つの方法があります。

1. [スタート] – [プログラム (Windows XPでは、すべてのプログラム)] – [SAS] – [SAS 9.1 Utilities] – [SASソフトウェア更新] を選択します。
2. [スタート] – [ファイル名を指定して実行] を選択し、次の手順を行います。
 - A. 「explorer」と入力し、[OK] をクリックします。
 - B. Isasroot ディレクトリに移動します (デフォルトの場所は、C:\Program Files\SAS\SAS 9.1です)。
 - C. core\sasinst¥に移動し、sasrenew.exeを実行します。

クライアントインストールの場合、管理者がSAS管理者ウィザードを使用してサーバー上のSASインストールデータを更新する必要があります。74ページの「メンテナンスモードによるサーバーイメージ上のSASインストールデータの更新」を参照してください。

詳細は、次を参照してください。

<http://support.sas.com/techsup/unotes/SN/010/010792.html>

❑ SASフォルダが有効ではありません。

SAS 9.1.3でSASソフトウェア更新ツールのステップ3を実行しているとき (特定のプロダクトにおいて)、次のエラーメッセージが表示されるかもしれません。

```
Renew SAS Software - sas91_xxxxxxx.txt
Error: The SAS folder is invalid. Please verify the folder.
```

この問題を解決するには、SASがインストールされている正しいフォルダを指定する次の手順を実行してください。

1. [OK] をクリックします。
2. [参照] をクリックして、SAS 9.1.3がインストールされているフォルダを指定します。

3. [更新] をクリックします。

重要： SAS 9.1.3をインストールする場合、管理者権限でログインしていることを確認してください。アンチウイルスプログラムを含むアプリケーションが実行されていないことを確認してください。詳細は、39ページの「アンチウイルスソフトウェアおよびファイアウォールソフトウェアを終了する」を参照してください。

「SASフォルダが有効ではありません (The SAS folder is not valid)」と表示された場合の詳細は、次を参照してください。

<http://support.sas.com/techsup/unotes/SN/010/010791.html>

SAS 管理者ウィザードによる SAS インストールデータの取得

SASソフトウェアのライセンスを新規に取得した企業の場合、または新しいSASソフトウェアをインストールしようとしている場合、SAS管理者ウィザードを実行することにより、SASインストールデータファイルを適用することができます。


SAS管理者ウィザードは、システム管理者が企業全体にSASを配置するときに必要なタスクの遂行を支援するツールです。電子メールで送付されたSASインストールデータをディスクに保存している場合、またはインストールメディアによってSASインストールデータが提供された場合は、ファイルからSASインストールデータを取得できます。


SAS 管理者ウィザードの起動

SAS管理者ウィザードを起動する方法はいくつかあります。ここでは、そのうちの3つを示します。

1. SAS Setup DiskからAutoPlayを起動し、[配置用SASイメージの作成] を選択します。
2. SAS Software Navigatorから、[配置用SASイメージの作成] を選択します。
3. SAWディレクトリからsetup.exeを実行します。

SAS 管理者ウィザードのダイアログと指示


 [SAS管理者ウィザードによる] 表示されます。記述されている内容を確認し、[次へ]をクリックします。

 [SASインストールデータ] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

SASインストールデータファイルの保存場所のフルパスとファイル名を入力します。

または、[参照] をクリックして別の場所を探します。

[次へ] をクリックします。

 SAS管理者ウィザードの処理が進むと、ウィザードによって指定したSASインストールデータファイルが、作成するネットワークイメージへ統合されます。以下に、SAS管理者ウィザードの残りのダイアログを示します。

- [エンドユーザーのタイプ]
- [セットアップステータス]
- [インストールする言語コンポーネントの選択]
- [インストールフォルダの選択]
- [コンポーネントの選択]
- [SASメタデータサーバー]
- [ファイルのコピー開始]
- [セットアップステータス]
- [SAS管理者ウィザードは完了しました]

各ダイアログの指示については、31ページの「SAS管理者ウィザードのウィンドウ」を参照してください。

SAS 管理者ウィザードのメンテナンスモード

メンテナンスモードは、SAS管理者ウィザードから実行できます。次の2つの処理を行います。

- サーバーイメージ上のインストールデータを更新する

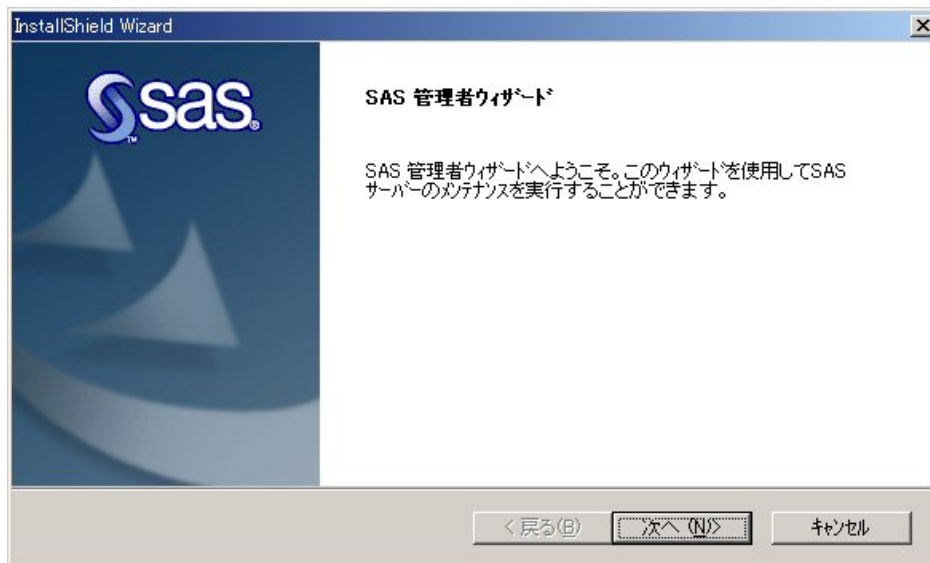
企業にすでにSASソフトウェアのサーバーがインストールされ稼働している場合は、メンテナンスモードでサーバーイメージ上のSASインストールデータファイルを更新することができます。この処理は、ユーザー数が多い場合のSASインストールデータファイルの更新に有効な方法です。

- Quiet記録ファイルを作成する

メンテナンスモードは、SASセットアップがQuietモードと共に使用される場合、quiet.iniを記録する方法を提供します。

メンテナンスモードでこれらの機能を使用する手順は、次のとおりです。

- 1 SASサーバー上で、SAWディレクトリを探します。
- 2 setup.exeをダブルクリックします。[設定言語の選択] ダイアログが表示されます。
- 3 使用する言語を選択し、[OK] をクリックします。[SAS管理者ウィザード] が表示されます。



メンテナンスモードによるサーバーイメージ上の SAS インストールデータの更新

SASソフトウェアのサーバーイメージがすでにインストールされている場合、サーバーイメージ上のSASインストールデータファイルを更新できます。

サーバー上の SAS インストールデータを更新する：ダイアログと指示

☞ [SASサーバーメンテナンス] が表示されます。記述されている内容を確認し、[次へ] をクリックします。

☞ [SASサーバーメンテナンス タスク] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

[サーバー上のSASインストールデータを更新する] または [SASインストールデータを適用する] のいずれかを選択します。これは、イメージがクライアントインストール用か、またはパーソナルインストール用かにより異なります。[次へ] をクリックします。

☞ [SASインストールデータ] が表示されたら、記述されている内容を確認してください。

SASインストールデータファイルの保存場所のフルパスとファイル名を入力します。

または、[参照] をクリックして別の場所を探します。

[次へ] をクリックします。

☞ [メンテナンスは完了しました] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

[完了] をクリックして、メンテナンスモードを終了します。

トラブルシューティング

次のエラーメッセージが表示されたとします。

入力された情報は誤っています。SASインストールキーとオーダー番号を再度入力してください。

[OK] をクリックし、インストールキットのSAS Order InformationシートまたはSAS Software Orderメールに記載してあるSASインストールキーとオーダー番号を確認します。必要に応じて情報を入力し、再度 [次へ] をクリックします。

次のエラーメッセージが表示されたとします。

```
SAS option '-PATH' not set.
Check configuration file, SAS environment options or command line
options.
SAS option '-RESOURCELOC' not set.
FATAL ERROR:WRCODE
```


[OK] をクリックします。クライアントのためにサーバー上のSASインストールデータファイルを更新するには、サーバーへの接続が最初のインストールと同じでなければなりません。SASはインストールの間、構成ファイルにネットワークの経路情報を含めます。エラーメッセージは、経路情報が最初のインストールと同じでない場合に表示されます。

メンテナンスモードによる Quiet 記録ファイルの作成

Quiet記録ファイル (quiet.ini) は、QuietモードでSASセットアップを実行することによって作成されます。Quietモードによるインストールに関しては、50ページの「QuietモードによるSASセットアップの使用」を参照してください。

Quiet 記録ファイルの作成：ダイアログと指示

- ☞ [SASサーバーメンテナンス] が表示されます。記述されている内容を確認し、[次へ] をクリックします。
- ☞ [SASサーバーメンテナンス タスク] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

[DeploymentのためのQuietファイルを記録する] を選択します。

[次へ] をクリックします。
- ☞ [Quiet記録ファイル] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

Quiet記録ファイルのパス名とファイル名を入力します。

[次へ] をクリックします。
- ☞ [Quiet記録ファイルの編集] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

必要なら、Quiet記録ファイルの設定を編集します。このウィンドウにおける更新作業の詳細は、51ページの「Quiet記録ファイルの編集」を参照してください。

[次へ] をクリックしてQuiet記録ファイルを保存します。
- ☞ [SAS Quiet記録インストールは完了しました] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

[完了] をクリックして、ウィザードを終了します。
- ☞ [メンテナンスは完了しました] が表示されます。記述されている内容を確認してください。

[完了] をクリックして、メンテナンスモードを終了します。

インストール時に対象となる SAS ソフトウェアの目録を作成

SAS 9.1.3 Foundationインストールは、サイトにおけるすべてのインストールにおいて、ライセンスされたプロダクトとインストールされたプロダクトの目録を作成する方法を提供しています。

この機能を使用するには、最初にインストール情報を格納するSASメタデータサーバーを設定する必要があります。サーバーの設定およびリポジトリの登録の詳細は、『SAS 9.1 Metadata Server Setup Guide』を参照してください。

SAS メタデータサーバーの設定後の配置イメージの作成

SAS メタデータサーバーの設定後、インストール処理にしたがって配置イメージを作成します。SAS管理者ウィザードにおいて、設定されたSASメタデータサーバーを指定するには [SASメタデータサーバー] ダイアログ (36ページ参照) を使用します。

配置イメージにおけるその後のインストール処理によって、SASメタデータサーバーに格納されるインストールおよびライセンスされたプロダクトの目録が作成されます。

目録の表示

登録されたインストールを表示するには、SAS管理コンソールのライセンスマネージャを使用します。詳細は、SAS管理コンソールを起動し、ライセンスマネージャをクリックしヘルプを選択します。

または、インストール情報を、METALICENSEプロシジャを使用してSASデータセットに抽出することができます。その後SQLプロシジャを使用して問い合わせることができます。詳細は、『SAS 9.1 Language Reference』を参照してください。

Windowsのシステムフォルダにインストールされるファイル一覧

SAS 9.1.3 Foundationをインストールすると、下記のファイルがシステムフォルダにインストールされます。

%SystemRoot%\

vpd.properties

%SystemRoot%\system32\

at170.dll
gdiplus.dll
mfc70.dll
mfc70u.dll
msvci70.dll
msvcp70.dll
msvcr70.dll
mfcans32.dll
oc30.dll
sasperf.dll

%SystemRoot%\Fonts\

SAS1252.FON
SAS437.FON
SAS850.FON
SAS860.FON
SAS863.FON
SAS865.FON
SASMONO.TTF
SASMONOB.TTF

%SystemRoot%\inf\009\SAS\

sasctrs.ini

%SystemRoot%\inf\inc\SAS\

sasctr.h

%SystemRoot%は、一般的にC:\WINDOWSまたはC:\WINNTです。

SAS Private JRE のインストールについて

SAS Private JRE のインストールを実行すると、ログファイル ITR.dat が C:\Program Files\SAS\Install\ に作成されます。C ドライブがシステムの起動するパーティションでなくても、C ドライブに作成されます。このファイルは小さく、通常 300 バイト以下のサイズです。

インストール中に C ドライブにアクセスできない状態の場合でも、インストールプロセスはエラーになることなく続行されます。

SAS Private JRE をアンインストールしても、ITR.dat は自動的に削除されません。手動で削除しても問題ありませんので、削除してください。

SAS 9.1.3 を Windows Terminal Server または Citrix MetaFrame システムにインストール

はじめに

Windows NT Server 4.0 Terminal Server EditionにTerminal Services機能が導入されて以来、1台のエンタープライズサーバーに、複数のリモートユーザーによる1つのアプリケーションの異なるインスタンスをサポートする機能を持たせることが重要になってきました。ユーザーがTerminal Server Clientセッションでアプリケーションを実行しているとき、アプリケーションはTerminal Servicesを実行しているサーバー上で実行されます。Terminal Services機能により、シンクライアントを介してサーバーのデスクトップに接続することができます。キーボード入力やアプリケーションウィンドウなどのユーザーインターフェイスはクライアント上で管理され、Terminal Serverに伝えられます。

また、SAS 9.1.3は、Terminal Services for Microsoft Windows NT Server 4.0 Terminal Server Edition、Windows 2000 Server Family、Citrix® MetaFrame™をサポートします。また、SAS 9.1.3は、Microsoft Windows NT Server 4.0とTerminal Server Editionの互換性テストに合格しています。

Terminal Services 向けの SAS System ライセンス供与

Terminal Services機能を持ったサーバー上でSAS 9.1.3をインストールするためには、WIN NTEかWIN NTSVの権限コードを持たなければなりません。SASのすべての処理やすべてのデータアクセスはサーバー上で行われるために、この権限コードが必須です。

Terminal Services のための SAS System サポート

SAS 9.1.3は、各SASユーザーに対して独自のデータファイルフォルダや一時ファイルフォルダを使用することによって、Terminal Services機能をサポートしています。SAS 9.1.3は、それぞれのフォルダの場所を、SAS構成ファイル (sasv9.cfg) の識別子SASUSERとWORKで参照しています。識別子には、SASUSERとWORKファイルの格納場所の変数パスが含まれています。SAS 9.1.3の起動中に、この変数がオペレーティングシステムにより決定され、各SASユーザーにとって固有な情報となります。SAS Systemの以前のバージョンでは、SASUSERセッションが下記の例のような変数パスに設定されていました。

```
/* デフォルトのSAS Systemユーザープロファイルのフォルダの設定 */
-SASUSER "!USERPROFILE¥Personal¥My SAS Files¥V9"
```

!USERPROFILEは、環境変数USERPROFILEを指しています。Windows NTのコマンドシェル(cmd.exe)でUSERPROFILEをタイプセットすることにより、USERPROFILEの値を表示することができます。

Windows 2000などのWindows Terminal Serverの新しいバージョンを適切にサポートするため、!USERPROFILEが?CSIDL_PERSONALに代わりました。SASは、まだ!USERPROFILEを認識しますが、Windows 2000 ServerファミリーのTerminal Services機能にはお勧めしません。変数パス?CSILD_PERSONALは、次のレジストリキーに保存されている値を指しています。

```
HKEY_CURRENT_USER\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion
\Explorer\Shell Folders\Personal
```

今回のリリースでは、SASUSERが下記の例のように設定されます。

```
/* デフォルトのSAS Systemユーザープロファイルのフォルダの設定 */
-SASUSER "?CSIDL_PERSONAL\Personal\My SAS Files\V9"
```

SASユーザーの作業場所WORKは、変数パスITEMPを使用してSAS構成ファイルに定義されます。この変数は、Terminal Serverオペレーティングシステムが決定する環境変数パスTEMPを指し、各Terminal Serverセッションに対して固有になります。

SASセットアップは、Terminal Services機能の検出およびユーザーが選定する独自のデータファイルや一時ファイルのフォルダに基づいて、SAS構成ファイル（sasv9.cfg）に必要な変更を行い、Terminal Services機能をサポートします。

Terminal Server 環境のための SAS System の必要要件

SAS 9.1.3をインストールする前に、各Terminal Servicesプラットフォームに対するハードウェアとソフトウェアの必要条件に必ず従ってください。次のようなTerminal Server環境におけるSAS 9.1.3のシステム必要条件は以下のとおりです。

Microsoft Windows Terminal Services

Microsoft Windows NT Server 4.0 Terminal Server版Service Pack 4

Microsoft Windows 2000

Microsoft Windows 2000 Serverファミリ

Citrix MetaFrame

Microsoft Windows NT Server 4.0 Terminal Server版Service Pack 4

Citrix MetaFrame 1.00 (Build 581)以上

Terminal Server 環境における SAS System セットアップの準備

Terminal Services機能を備えたサーバー上に適切にSAS 9.1.3をインストールするためには、次のステップを実行しなければなりません。

- 1 SAS 9.1.3をインストールするTerminal Serverにシステム管理者としてログオンします。
- 2 Windows Terminal Serversにアプリケーションをインストールするためには、インストールモードが必要です。システムをインストールモードにするには、2つの方法があります。
 - 最初の方法は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」の「プログラムの追加」を選択します。ユーザーオプションの変更が求められます。すべてのユーザーが共通のアプリケーション設定で始められるオプションを必ず選択してください。

- 2番目の方法は、Windowsのコマンドプロンプト(cmd.exe)で、「change user /install」と入力することです。インストールモードが正しく設定されたか通知するメッセージが表示されます。
- 3 Terminal Servers上にSAS 9.1.3をインストールすると、システムの再起動が必要になることがあります。ユーザーの作業中断を最小限にするため、インストールの前にすべてのユーザーにTerminal Serverからログオフしてもらいます。リモート端末セッションを使用して、SASソフトウェアをTerminal Serverにインストールすることができますが、再起動の可能性があるので、お勧めできる方法ではありません。

このインストールを開始する前に、アンチウイルスソフトウェアおよびファイアウォールソフトウェアを終了することを推奨します。アンチウイルスソフトウェアやファイアウォールソフトウェアは、アプリケーションを正しくインストール際の妨げになります。したがって、このような種類のソフトウェアを実行したままにしておくと、SASソフトウェアを数回インストールし直す必要性が高くなります。

アンチウイルスおよびファイアウォールソフトウェアを終了できない場合、この構成でインストールするおよびレジストリを更新する権限があるかどうかを確認してください。アンチウイルスおよびファイアウォールを終了することが許可されず、かつSASのインストールが失敗する場合、システム管理者に問い合わせてください。

再起動が必要になると、再起動の完了後に、Terminal Serverへの接続を再確立する必要があります。Terminal Serverセッションにログオンした後、再度SASセットアップがインストールを再開し続けるはずですが、セットアップが再開しない場合は、SASセットアップを起動すると再起動の前に進んでいた画面から再開します。

SAS 9.1.3 のインストール

Terminal Services機能を持ったサーバーへのSAS 9.1.3のインストールは、通常のサーバーへのSASのインストールと非常に似ています。Terminal Services環境のためのSAS 9.1.3の設定など、主要な変更点はインストールによって処理されます。インストール中に守るべき重要な点がいくつかあります。

- 1 セットアップからデータファイルフォルダの入力を要求されたら、必ずセットアップから与えられるデフォルト値をそのまま使用してください。このダイアログでデフォルト値を採用することにより、セットアップはSAS構成ファイル内のSASUSERの保存場所に対する変数パスを使用するようになり、より確実にSASのユーザーごとに個別のSASUSERフォルダが使用されます。
- 2 セットアップから一時ファイルフォルダの入力を要求されたら、必ずセットアップから与えられるデフォルト値をそのまま使用してください。このダイアログでデフォルト値を採用することにより、セットアップはSAS構成ファイル内のWORKの保存場所に対する変数パスを使用するようになり、より確実にSASのユーザーごとに個別のWORKフォルダが使用されます。

以前にSAS 9.1.3がインストールされているサーバーにSAS 9.1.3をインストールすると、SASUSERとWORKの保存場所のデフォルト値は、レジストリに保存されている以前選択した値になりますので、注意してください。この値が示す場所では、個別のSASUSERとWORKフ

フォルダを正しく確保できない可能性があります。インストール後にSAS構成ファイル（sasv9.cfg）を変更して、この値を修正できます。sasv9.cfgの修正は、79ページの「Terminal ServicesのためのSAS Systemサポート」を参照してください。

環境設定とパフォーマンスの考慮点

次に、Terminal Services機能を持ったサーバー上にSAS 9.1.3をインストールした後に実行する追加ステップを示します。

- 1 SAS 9.1.3のパフォーマンスを最適にするため、サーバーのメモリの設定値は、同時実行中のユーザー1人につき少なくとも32MBをお勧めします。
- 2 SAS 9.1.3を実行しているTerminal Server Clientのセッション数とTerminal Services機能を備えたサーバーで使用可能なメモリ容量に基づいて、メモリ容量を増やすことができます。

WORK ディレクトリ

作業サブディレクトリはSASセッションごとに作成され固有な名前であるため、WORKディレクトリを共通の場所に設定することができます。作業ディレクトリは、「?CSIDL_PERSONAL」または「!USERPROFILE」という設定があります。これは、どの作業ディレクトリがどのユーザーのものかを把握しておきたいときのオプションです。

ユーザーが複数のディスクにまたがっている場合や、各ディスクにかなりのディスク容量がある場合にも、この設定が役立ちます。パフォーマンスの重要な要因であるディスクの回転量が減少します。ディスク容量が不足している場合、または非常に高速のハードディスクがある場合には、共有の作業ディレクトリが有効な場合があります。

どの方法を選択するかは、コンピュータハードウェアとRAID設定に依存しています。たとえば、RAID 0のドライブは、RAID 5のドライブと比較してはるかに高速ですが、複数のドライブに作業ディレクトリを分散させるほど高速ではないかもしれません。RAID 0のドライブには冗長性がないため、永久データセットを配置すべきではありません。

メモリ

パフォーマンスにはメモリが重要なので、できる限り多くのメモリをシステムに搭載する必要があります。一時ファイルや他のシステムの操作では、メモリはハードディスクよりもはるかに高速です。コンピュータのメモリがなくなると、オペレーティングシステムはハードディスクのスワップファイルを使用してメモリに読み込まれた情報を保存せざるを得なくなります。したがって、メモリを増やすとパフォーマンスを大幅に向上させることができます。

サーバーを利用するユーザーが増えれば、より多くのメモリが消費されます。コンピュータに十分な量のメモリを増設できるかを確認しておいてください。

バッチパフォーマンスとバックグラウンドでの SAS の実行

Windows Terminal ServerまたはCitrix Metaframeの下では、フォーカスが別のアプリケーションに移ると、SASは処理を停止します。フォーカスがSASセッションに戻ると、処理を続けます。SASをバックグラウンドまたはバッチプログラムで実行するときにも、同じ問題が発生する可能性があります。

たとえば、SASセッションの実行中に、メモ帳に切り替えると、メモ帳のウィンドウが前面にあるかアクティブである限り、SASセッションは待機状態になります。SASウィンドウを再度アクティブにすると、SASは実行状態になります。この問題を回避するためには、下記の例に従ってください。

注意： 実際のキーを含めたレジストリキーを入力しなければなりません。Microsoft Knowledge Base (KB) のArticle Q186628に、関連のレジストリエントリの説明があります。

次のレジストリの修正により、SASのパフォーマンスが大幅に向上します。個々のケースにより値の修正が可能です。

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion
\Terminal Server\Compatibility\Applications\SAS]
"Flags"=dword:00000008
"NthCountMsgQPeeksSleepbadApp" =dword:0000FFFF
"FirstCountMsgQPeeksSleepBadApp"=dword:0000FFFF
"MsgQBadAppSleepTimeInMillisec" =dword:00000000
```

SAS ソフトウェアのアンインストール

以下の2つの方法で、SAS 9.1.3 Foundationをアンインストールできます。手動でSASファイル削除するのではなく、これらの方法を使用すると、Windowsレジストリが適切に更新されます。

コントロールパネルから Windows の機能によるアンインストール

エンドユーザーがSASソフトウェアをアンインストールする処理は、他のWindowsソフトウェアのアンインストールとまったく同じです。[マイコンピュータ]-[コントロールパネル]-[アプリケーションの追加と削除] をクリックします。リストから [SAS 9.1.3 Foundation] を選択し、[OK] をクリックしてSASを削除します。

コマンドラインからの無人アンインストール

SAS Foundationの配置可能なイメージを作成している管理者は、下記のコマンドを使用することによって、SASソフトウェアの無人アンインストールができます。

```
"...¥sas¥setup.exe" uninstall -s -f1"<full path to uninst.iss>"
-f2"<full path to log file>"
```

次に例を示します。

```
m:¥MyNetDrive¥Disk1¥SAS¥setup.exe uninstall -s -
f1"m:¥MyNetDrive¥disk1¥sas¥uninst.iss" -f2"c:¥unset.log"
```

SAS Foundationの配置可能なイメージを作成していない管理者は、SAS Setup CDを使用することによって、下記のコマンドでSASソフトウェアの無人アンインストールができます。

```
"e:¥sas¥setup.exe" uninstall -s -f1"e:¥sas¥uninst.iss" -
f2"c:¥uninstall.log"
```

この例では、e:¥はCD-ROMドライブであると仮定しています。

異なるバージョンが共存する環境での SAS のアンインストール

2つのバージョンのSASを1つのPCに別々の設定でインストールしている環境で、そのうち1つだけをアンインストールする場合、残したバージョンのSASのサーバーもしくはメディアから `setup -register` を実行する必要があります。コマンド `setup -register` は、SASソフトウェアのアンインストール後に起きるファイルの割り当ての問題を修正します。

次のコマンドを実行します。

```
<drive letter and full path to SAS setup.exe file>setup.exe -
register
```

次に、異なるバージョンのSASが削除されてSAS 9.1.3が残った場合、どのようにコマンドを使用するかについて例を示します。

```
o:¥SAS Server¥9.1¥sas¥setup.exe -register
```

複数のリリースのSASのインストールについての詳細は、25ページの「SASインストールの更新」を参照してください。

Windows システムフォルダの削除されないファイル一覧

SAS 9.1.3 Foundationをインストールすると、下記のファイルがシステムフォルダにインストールされます。SAS 9.1.3 Foundationをアンインストールしても、これらのファイルは削除されません。

```
%SystemRoot%\
```

```
vpd.properties
```

```
%SystemRoot%\system32\
```

```
at170.dll
gdiplus.dll
mfc70.dll
mfc70u.dll
msvci70.dll
msvcp70.dll
msvcr70.dll
mfcans32.dll
oc30.dll
sasperf.dll
```

```
%SystemRoot%\Fonts\
```

```
SAS1252.FON
SAS437.FON
SAS850.FON
SAS860.FON
SAS863.FON
SAS865.FON
SASMONO.TTF
SASMONOB.TTF
```

```
%SystemRoot%\inf\009\SAS\
```

```
sasctrs.ini
```

```
%SystemRoot%\inf\inc\SAS\
```

```
sasctr.h
```

%SystemRoot%は、一般的にC:\WINDOWSまたはC:\WINNTです。

手動による削除

注意： SAS Private JREのログファイルの手動による削除については、78ページを参照してください。

下記のファイルは手動で削除しても問題ありません。

```
%SystemRoot%\
```

```
vpd.properties
```

%SystemRoot%\system32\

sasperf.dll

%SystemRoot%\Fonts\

SAS1252.FON

SAS437.FON

SAS850.FON

SAS860.FON

SAS863.FON

SAS865.FON

SASMONO.TTF

SASMONOB.TTF

%SystemRoot%\inf\009\SAS\

sasctr.ini

%SystemRoot%\inf\inc\SAS\

sasctr.h

%SystemRoot%は、一般的にC:\WINDOWSまたはC:\WINNTです。



THE
POWER
TO KNOW®

support.sas.com

SAS is the world leader in providing software and services that enable customers to transform data from all areas of their business into intelligence. SAS solutions help organizations make better, more informed decisions and maximize customer, supplier, and organizational relationships. For more than 30 years, SAS has been giving customers around the world The Power to Know®. Visit us at **www.sas.com**.

英語版更新日 February 28 2008

**Microsoft® Windows® 版SAS® 9.1.3 Foundation
管理者ガイド**

2008年5月16日 第3版第11刷発行 (913K22)

発行元 SAS Institute Japan株式会社

〒106-6111 東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー11階

本書の内容に関する技術的なお問い合わせは下記までお願い致します。

SASテクニカルサポート

TEL: 03(6434)3680 FAX: 03(6434)3681